

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2017

9

第18号

球磨川大水害の記録



日の出と共に鮎漁の出舟（人吉市） ©梅田 勇

さあ、巡礼の旅に出よう。

相良三十三観音と人吉球磨の
「日本遺産」を熱く語った
ずしりと重いガイドブック

岐部明廣

撮影／濱田喜幸

人吉中央出版社

日本遺産
相良三十三観音巡礼

■A5判／並製本／424頁／オールカラー
■定価 2,000円（＋税）送料 200円

人吉球磨の書店
外山胃腸病院で取扱い中。
Amazonでも購入できます。

目次

- 第1章 観音さまベストテン巡礼
 - 第2章 古典的江戸時代コース巡礼
 - 第3章 ぶらり旅巡礼
 - 第4章 健脚高齢者コース巡礼
 - 第5章 健脚若者コース巡礼
 - 第6章 奥球磨コース巡礼
 - 第7章 千手観音巡礼
 - 第8章 十一面観音巡礼
 - 第9章 如意輪観音巡礼
 - 第10章 隠れ念仏巡礼
 - 第11章 御詠歌ベストシックス巡礼
 - 第12章 伝説を楽しむ巡礼
 - 第13章 墓から歴史を楽しむ巡礼
 - 第14章 脇役を楽しむ巡礼
 - 第15章 山頭火と巡礼
 - 第16章 神社廻りと巡礼
 - 第17章 夏目友人帳聖地巡礼
 - 第18章 お彼岸でない日の巡礼
 - 第19章 「須恵村の女たち」を楽しむ巡礼
 - 第20章 人吉温泉と巡礼
 - 第21章 国指定重要文化財を楽しむ巡礼
 - 第22章 球磨川・川辺川を楽しむ巡礼
 - 第23章 隠れキリシタン巡礼
- ――巻末付録――
・相良三十三観音霊場一覧
・相良三十三観音巡礼地図

発行元

〒868-0015 熊本県人吉市下城本町 1436-4 の3号
TEL・FAX0966-23-3759 info@hitoyoshi.co.jp

人吉中央出版社

雑誌 81779-09-7



4910817790970
00500

月刊 くまがわ春秋 第18号 2017年9月15日発行

企画：人吉球磨総合研究会

発行：人吉中央出版社

TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759

http://www.hitoyoshi.co.jp/

定価 540円

本体 500円

〒868-0015 熊本県人吉市下城本町 1436-4 の3号

http://www.hitoyoshi.co.jp/

info@hitoyoshi.co.jp

カ ラ ー 特 集

「ななつ星」大畑駅に停車／3
 限界集落便り「番外編」坂本桃子／4
 球磨川大水害の記録① つる祥子／12
 ほいくのなかで描いた絵⑭／10
 「造林鎌」溝口隼平／30

— 9月(第18号) 目次 —

自分好みの「巡礼」に出会える一冊 上村和代／16
 球磨川の駅・ものがたり⑮ 松本晋一／20
 記憶の落ち穂⑮ 坂本福治／25
 定吉が行く⑮ 鳥飼博／26
 建築みてある記⑮ 森山 学／32
 ツクシイバラの守り人 桑原智子／36
 くまがわの神さん仏さん⑮ 宮原信晃／38
 柳人があじわう漱石俳句⑮ いわさき楊子／41
 上杉芳野の「あがつ段」⑮／42
 くまがわ狂句 村上鬼拳／44
 漢和辞典は面白い① 鶴上寛治／45
 山に行こうよ！⑧／46
 医食同源⑬秋の養生食 浦川春加／48



湯前まんが美術館設立の頃② 溝下昌美／50
 今月の秀句⑦ 永田満徳／53
 くまがわすじの考古地誌⑫ 木崎康弘／54
 方言を味わう⑮ 前田一洋／58
 残照「川辺川——そして上」富永和信／60
 鶴鶴短歌会／63
 「西本願寺医師の会」瀬戸致行／64
 今月の詩 ⑮／66
 おととわつとあすび⑦松舟博満／67
 倉敷便り⑨ 原田正史／68
 いもご短歌会／71
 伊勢戸明「くま春秋」論 上村雄一／72
 くまがわ学習塾⑨／79
 字図で見る球磨の地名⑮ 上村重次／80
 外来語から学ぶ英単語⑮ 藤原 宏／83
 ひろしげっかん・ぎひょう／83
 前号「くまがわ学習塾⑧の答え」／87

本 誌 の
取 扱 店 舗

■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木駅店)
 ■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

月刊誌は生き残れるか

紙メディアから電子メディアへの移行が急激に加速化している。たとえば新聞の販売部数はこの10年の間に約1000万部以上減少した。新聞を購読しない世帯は3割以上になった。週刊誌・月刊誌も深刻で、ほとんどの雑誌はこの10年で販売部数を半分以下に減らした。雑誌だけでなく国語辞典も売れなくなっている。

キーボードを打たなくても画面に向かって語りかければ、その声に直ちに応える技術も生まれていて、調べたいものがあるときには画面に向かって何を知らたいかを告げる姿も稀ではなくなった。グーグルやヤフーなどの検索サイトを利用することから「ヤフー先生に聞く」という言葉も流通している。若い世代ほどその傾向にあつて、今後いつそう電子メディアへの依存が強まるであろう。身の回りを見て欲しい。それは単なる予測でなく確実な方向であることを実感していただけるであろう。

右の状況を考えるとき、本誌のような月刊誌に未来はあるのかといった疑問も自ずから生じる。同時に地域固有な問題については電子メディアは対応できず、その空間は地域の紙メディアで埋めるしかないであろうと思う。徹底して地域にこだわるとき、地域性だけでなく普遍性も確保できるのではないか。

本誌は身体が小さく、余裕もない。それゆえに走りながら考えるしかない。走りつづける中で身体に染み込んだものがしだいに表面に浮き出てくるであろう。どのようなものが表れてくるかを楽しみにして走ろう。

9月9日は本誌にとって特別の日である。20年前の平成9年9月9日、本誌の出版元の人吉中央出版社は設立された。同社は走りつづけた。同社はどのような色をあらわしたか。伊勢戸明著『くま春秋』にその色はあらわれている。平和と民主主義を希求し、地域の発展を切望する姿が同書から浮かび上がってくる。

(春秋)

巻頭言

「ななつ星」大畑駅に停車 ルート変更して人吉入り

8月25日(金)、大畑駅^{おこば}にある「ななつ星」が2時間も停車した。地元大畑小の子どもたちが歓迎の旗を振

り、歌などを披露。乗客は汽車を降り、駅舎周辺を散策した。

22日に3泊4日コースで運行を再開したJR九州の豪華寝台列車「な



肥薩線・大畑駅に停車した「ななつ星」(8月25日)



列車を出迎えた大畑小の児童たち(撮影/高場俊郎)



人吉駅には8分間停車

なつ星 in 九州」は当初、大畑・人吉駅での停車は来春からの予定だったが、久大線の豪雨被災で日程やルートが変更され、前倒しで組み込まれたもので、来年2月27日出発分まで停車する予定。

限界集落便り「番外編」 それぞれの想い、それぞれの七夕綱

坂本桃子



「八代・芦北の七夕綱」が平成27年、国の無形民俗文化財に選定されたことはまだみなさんの記憶に新しいかと思いますが。「八代・芦北の七夕綱」とは、八代市坂本町木々子地区と、芦北町の上原地区、岩屋川内地区、下白木地区、祝坂地区の5か所で継承されている七夕綱をさします。

そもそも、「七夕綱とはなんぞや？」という方のために説明をすると、毎年8月7日の伝統的七夕にあわせて行われる行事で、ほとんどの地区においてその七夕前夜である8月6日に



稲藁で長い綱を練り、集落を流れる川へと張り渡します。その綱には集落の

みなさん手作りの藁細工の飾り物が吊り下げられ、人形だったり、動物だったり、農具だったり、地域ごとに異なる個性豊かな飾り物が並びます。この七夕綱の風習は、「織姫と彦星が出



祝坂地区の藁細工づくり（芦北町）

会うための綱である」という解釈が一般的ではありますが、それだけでなく「集落に厄病が入ることを防ぐため」だとか、「お盆にご先祖様がこの綱を渡ってかえってくるため」などといった、様々ないわれがあります。かつては熊本県南部において、30か所以上で行われていたそうです。ここ3年ほど、地元坂本町の木々子の七夕綱には毎年お邪魔していたのですが、せっかくお隣の芦北町でも4か所で行われているのだからと思い、今年は「祝坂」地区と「下白木」地区の七夕綱見学にも行ってみることにしました。ここ二つの地区は芦北町の大野地域に属し、坂本町や球磨地方からも近い場所にあるので、よくご存知の方も多いかと思っています。

今年の8月6日はちょうど日曜日で、普段よりも人が集まりそうなタイミングの良い年だなあと感じていましたが、なんと台風の接近により、七夕綱も日程を変えざるを得ない状況となっていました。

祝坂地区もそのひとつで、前日の8月5日に変更となっていました。直前にご丁寧に日程変更の連絡をいただき祝坂へ向かうと、台風対策として藁で練った綱ではなく、やむをえずロープで七夕綱を張るということでした。「こんなことは初めてよ」と集落のみなさんは苦笑いをしながらも手際よく、ロープに藁細工の飾り物を吊るしていきます。祝坂も集落の高齢化が深刻で、毎年その場で飾り物を制作していたそうですが、今年はつい

に各家庭で事前に飾り物を用意して、当日吊るすだけの方法に変更したといっています。

祝坂には、なんといっても文字の飾り物があることに驚きました。「北斗七星」や「天の川」など星にまつわるものも見られ、集落のみなさんが七夕行事として意識していることが感じられます。ご年輩のお父さんは、初めてカッパを作ったといいますが、見事な出来栄で、今にも動きだしそ



うです。最近若者の間で人気のお笑い芸人のギャグをそのまま藁細工で表現しているものもあり、ロープに吊るされたその飾り物に、現代のものと伝統がうまく融合した祝坂の七夕綱の面白さを感じました。

祝坂へ訪れて一番衝撃を受けたのは、当日七夕綱に携わる方全員が男性であるということです。坂本町の木々子地区では女性が主体となり、活動をされていたこともあつて、勝手に女性の存在が重要であると思ひ込んでいた自分の常識が覆った瞬間でもありました。

祝坂では毎年男性が集い、飾り物を吊るし、綱を張るのが普通のことであると、幼少時代から七夕綱に携わってきたという坂里さんが教えてくれ

ました。坂里さんは50歳をこえていらつしやいますが祝坂地区ではまだまだ若手で、毎年一人で七夕綱用の一本綱を練る、祝坂の七夕綱行事になくてはならない存在です。もう40年ほど綱を練っているそうで、本人曰く「もしかしたら母のお腹の中にいる時から練りよったかもしれないですね。」と。今年ももちろん、当日に間に合うように早くから綱を準備されていました。残念ながら台風のため、ロープになつてしまいました。が、台風が去った後に改めて、坂里さんの練った綱で張り直すそうです。

その翌日、8月6日。どんなに大きな台風が近づいていようと、とんとん8月6日の七夕綱にこだわる地区がありました。芦北町大野地域、

からです。

宮崎さんは、下白木ではこれまで一度も日にちや時間帯を変更することはなかったと言います。文化財になることでそれができなくなってしまうのであれば、下白木は外してもらってもいいです、と町に伝えたこともあるそうです。8月6日の夜に集落みんながつくりあげる下白木の七夕綱そのものが文化財であり、それを保存してほしいのだと。下白木のみなさんには、代々伝わるしきたりを守りぬき、その伝統をこれからも大切にしていきたいという強い思いがありました。

8月6日当日、会場となる下白木地区公民館を訪れると、既に館内には大量の藁が用意してありました。かつては集落内だけで藁を集めることができたが、今となっては稲作をす



下白木地区公民館で（芦北町）

下白木地区です。下白木地区は現在39軒あり、やはり祝坂と同じく高齢化がすすんでいます。今年77歳にな

る下白木地区の宮崎さんは、30代の頃から中心となつて七夕綱の行事に参加してきました。宮崎さんはこれまで、町の文化財としての指定や、国の無形民俗文化財として選択される際に、毎回懸念していたことがありまし

た。それは、8月6日の夜に行う下白木の七夕綱が文化財になることで、対外的に「見せ物」として行われ、日にちや時間帯が変わつてしまふのではないかということです。下白木では、年齢関係なく、集落に住む全員が集まってみんなで七夕綱をつくりあげます。夜に行われるのは、仕事をしている世代でも参加できるようにという配慮

る方も減り、よその集落から分けてもらうことが増えたそうです。それにしてもよくこんな大量の藁を集められたなあと感じっていると、続々と集落の方が集まってきました。本来であれば、公民館の外で飾り物の制作をするのですが、今年は台風の影響により室内で行うことになりました。

驚いたのは、小学生の子どもが2名ほど参加していたということです。しかも慣れた手つきで藁を選別して、何のためらいもなく飾り物をつくり始めていました。また、30代や40代の若い男性や主婦の方もいらっしやいました。なんだか下白木、他の七夕綱を継承している集落とは全然様子が違います。特に大きく異なっていたのは、飾り物を事前に用意してゐるのではなく、ゼロの状態からその場で制作

をするということです。事前にゆくり時間をかけてつくられた飾り物は確かに綺麗で、見栄えもよく、飾り物としての質は高くなりますが、少ない時間の中で、いわゆる「できたしこ」でつくられる下白木の飾り物は、つくった人それぞれの性格が表れ、素朴で人間味の溢れる作品となっていました。

私はそんな下白木のみなさんの姿を見て、驚きとワクワクがとまりません。子どもからお年寄りまでいろんな世代が集まり、和気あいあいとした雰囲気の中で飾り物を制作した後は、いよいよ、長く練られた一本綱に、できたてホヤホヤの飾り物を吊るします。一本綱を練ったのは、もちろん七夕綱の大ベテランである宮崎さん。「この綱は簡単に切れることはなかとよ」

と、今年も自信满满です。台風接近が嘘だったかのように、空には大きな虹がかかっていました。

「織姫さんと彦星さんが今から会わすばいね。」とご年輩のお母さん。例年よりも随分早い時間に飾り物と一本綱が完成し、いつもだったら真っ暗の中、車のライトを照らし綱を張るのですが、今年はまだうす暗い位で、ライトがなくても綱を張ることができました。ふと、天高く張られた七夕綱を見上げると、ちょうど夕日が沈んだばかりの空がグラデーションになっていて、そんな美しい雨上がりの夕焼け空を背景に、下白木のみなさんがつくった温かい人形たちがこつちを向いて笑っているようでした。空を見上げながら、「今年も無事に終わったねえ」と、達成感に満ち溢れ

た満足気な表情をしている下白木のみなさんを見ると、自然と涙があふれ、きつとこういう集落こそ人がいつまでも住み続け、いつまでもなくなることのない、神に守られた地なのだろうと感じました。

今回、芦北町の2つの地区の七夕

綱を訪れたことで、これまで地元坂本町の木々子地区のものしか知らなかった私にとって、大きな刺激となりました。同じ「国の無形民俗文化財」であつても、それぞれの集落で、それぞれのスタイルで、それぞれの想いがあつて「七夕綱」というひとつの形に表現されていました。かつて30地区以上で行われていたものが、現在5か所しか残されていないことから、このような伝統を受け継いでいくことがいかに大変であるかということは、み

なさんも既にお解りかとは思いますが。

そんな伝統を今も大切に守り続けている集落から、きつとみなさんも何か感じる事があると信じています。来年の七夕綱、気になった集落に是非、足を運んでみてくださいね。

前回、限界集落でも今なお受け継がれる伝統行事として坂本町^{しんぷり}^{ひやくまんべん}地区の「百万遍」をご紹介します。

あれ、地元坂本の木々子については何？と思った方もいらっしやるかと思いますが、今回はあえて書いておりません。木々子についてはまたいつか（笑）。

【さかもと・ももこ／八代市坂本町】



シリーズ ほいくのなかで描いた絵⑭ 福島保育園 (球磨郡錦町) 楽しかった夏の思い出

コンサート



描いた人：田原わか（錦町）

旅の音楽家「マリオとはるちゃん」のコンサートを見ての絵です。

二人はギターを弾きながら歌ったり語ったり、世界のいろんな不思議な音色の楽器を演奏してくださいました。

腹話術の「ゆうちゃん」の登場に大笑いしたり、マジックにびっくりしたりのあっという間の1時間でした。

地域や保護者の方も一緒に楽しみました。（下の茶色の部分は保育室の床です）

コンサート終了後、カッパの折り紙を教えてくださいました

ライフジャケット学習会

球磨川セーフティキッズラボからライフジャケットの学習会の時の絵です。

左は講師？ 右側の二人はジャケットを着けてプールで浮く体験をしています。

日頃から保育園で「一番大切なものは命です」と学んでいますが、今回もジャケットを着けて「命」を守る学習をしました。

ライフジャケットを着けての水遊びは、最初は緊張していましたが、徐々に慣れてきて、とても楽しかったようです。



描いた人：濱崎ゆうた（錦町）



社会福祉法人 福島保育園
昭和52年7月、厚生大臣認可保育園として11月1日に開園。定員は90人で、その人数に対応する充実した保育環境が揃っています。子ども達が走り周れる広い運動場、夏には大きなプール、そして雨の日には体育館でのびのびと遊ぶことができます。
球磨郡錦町一武 745-4
電話 0966-38-0260

最近のおもな出来事

- 8月17日（木）
▽多良木町夏まつり・花火大会（同町多目的グラウンド内）
- 8月19日（土）
▽第71回大塚球溪顕彰音楽祭個人コンクール予選（～20日、人吉市カルチャーパレス）
- 8月20日（日）
▽「おどろがフクロモントレスト」展示（～27日、あさぎり町免田ポッポ一館）
- 8月21日（月）
▽青井阿蘇神社「夏越祭」（同神社境内）
- 8月25日（金）
▽第63回人吉花火大会（ふるさと歴史の広場内）
- ▽第33回にしき夏まつり（錦町役場前広場）
- 8月26日（土）
▽第11回球磨川音楽祭with木野雅之（人吉市カルチャーパレス）
- ▽第26回日本の大鮎釣し選手権大会（球磨川の球磨川流域）
- 8月27日（日）
▽第11回球磨川音楽祭with木野雅之（多良木町交流館石倉）
- ▽第2回きんぎょん笑祭ーあさぎり町（同町免田総合グラウンド）
- 9月2日（土）
▽日本遺産人吉球磨の民謡全国選手権大会（人吉市カルチャーパレス）
- 9月9日（土）
▽第72回熊本県民体育祭「炬火採火式」（青井阿蘇神社）



表紙写真 「くま川下り発船場の日の出」
鮎漁の方の出発です。日の出の風景を撮り続けて5年あまり、今朝も人吉らしい光景に出会いました。

（2017年9月10日午前6時19分撮影）

梅田勇（人吉市）

今月の一言

『文読む月日』

（レフ・トルストイ編著
北御門二郎訳）より

真実の言葉はいつも飾られることなく、かつ簡潔である。
（マルセリン）

昭和40年 球磨川大水害の記録 (坂本①)

自然観察指導員熊本県連絡会会長 つる 祥子

昭和40年7月3日の球磨川流域は、梅雨後期の停滞前線により6月28日ごろから雨が降り続き、2日の夜半から豪雨となり、流域各地で大氾濫を起こし、甚大な被害をもたらしました。その時の旧坂本村や旧八代市の様子を撮った写真を、25年程前に個人的に入手したままに放置していました。記憶が失われる前に、それらを3〜4回に分けて紹介したいと思います。

この時の水害は、急激な水位の上昇や大量の土砂流入があり、過去の出水と大きく違ったため、市房ダムや荒瀬ダム、瀬戸石ダムの放流によるものだという声を流域に住む方たちから多く聞きましたが、今回の写真はそれを検証するものというよりは、当時の水害がどのようなものであったか、

また、同じ場所の普段の街並みの様子や人々の暮らしがどのようなであったかを知ることができる一つの記録として紹介したいと思います。

昭和40年当時、坂本村の中心部は、球磨川と油谷川の合流点付近の坂本地区にありました。ここには旅館や商店が集まり、油谷川沿いには、豊富な



昭和40年当時の坂本地区 (○数字は撮影地点)



①製紙工場の資材倉庫 上=洪水時(午前9時撮影)
下=普段の同場所



の跡を辿ることができます。

この坂本地区は、町の中心部でありながら、洪水がとて多いところだったようです。今の坂本駅付近が1年に一度床下浸水するような時は、ここは年に5〜6度の床上浸水、たまに坂本駅周辺が床上浸水するような時は、ここは天井まで来るような浸水があったようです。そこから、油谷川を少し遡り、標高も幾分高くなっているとはいえ、そんなと

ころに製紙工場があったとは驚きですが、荒瀬ダム建設前の洪水は、きれいな水があふれるだけだったので、仮に水に浸かることがあっても、紙なので水が引けばまた洗って紙を再生することができたと言えます。しかし、これ程の水位上昇をもたらす規模の洪水は流域にとっても初めてのことで、水害という言葉が生まれるきっかけとなりました。

この大洪水は、昭和29年に荒瀬ダムが運用開始してから11年後の昭和40年7月3日に発生しました。何時に洪水が起



④正門から上流部（左：洪水時 午前9時30分頃、右：普段の同場所）



⑤正門前（上：洪水時 午前9時頃、下：普段の同場所）



い流木の流出が全くないこと
がとても興味深く感じま
した。また、もうこの頃の
油谷川はすでにコンクリー

トの2面張りだったことが分かります。これらのことについ
て、時間がある時に地元の方にお話を聞いてみたいものです。

【つる・しょうこ／八代市】



製紙工場の跡地は現在、「わいわいパーク」とい
う公園になっている

また、普段の同じ場所を撮影したものと一緒に紹介して
ありますので、昔の坂本の様子をうかがい知ることができ
ます。この普段の写真がなければ、どこが川や道路で、ど
こが敷地なのかも全く分かりません。いい形で写真が保存
してあったと提供者
に感謝です。

個人としては、洪
水のピークからそう
時間が経ってないと
思われる時間帯に、
川舟がいくつも使用
されていること、ま
た、最近の洪水と違



②守衛室（左：洪水時 午前8時30分頃、右：普段の同場所）



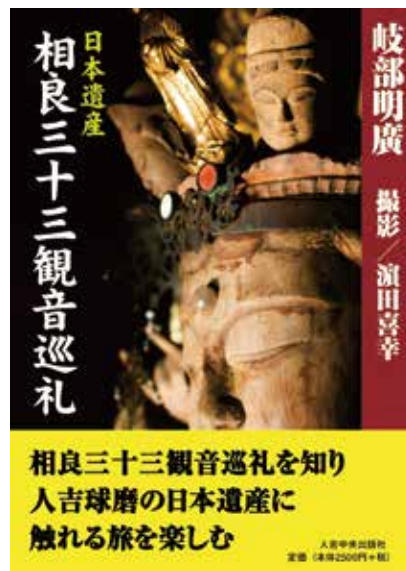
③正門前（左：洪水時 午前8時30分頃、右：普段の同場所）

自分好みの「巡礼」に出会える一冊

上村和代

いまは空前の「巡礼」ブームらしい。

テレビや新聞・雑誌、ネットを見ると多種多様な「巡礼」を目にする。「四国八十八か所巡礼」や「西国三十三か所巡礼」など昔ながらの巡礼に加え、「パワースポット巡礼」や「御朱印巡礼」も流行っている。なかでもアニメや漫画・ゲームのファンが、作品にゆかりのある場所を「聖地」と



岐部明廣著『日本遺産 相良三十三観音巡礼』
(2016年5月31日 人吉中央出版社)

呼び、現地へ赴く「聖地巡礼」は、昨年大ヒットしたアニメ映画のロケ地を訪れる観光客の急増で社会現象と言われるまでになった。一時的な流行語の枠を超えて定着した感がある。

岐部明廣著『日本遺産 相良三十三観音巡礼』は、三百年以上の歴史がある相良三十三観音巡礼をベースに「日本遺産」に選ばれた人吉球磨の文化・伝統の楽しみ方を、23通りの「巡礼」という形で提案するガイドブックだ。昔ながらの観音巡礼をしたいという人から、仏像を鑑賞したい人、きままなぶらり旅をしたい人……いろいろな人へ向けて、それぞれに見合った形で観音巡礼をおすすめている。どの章にも筆者のこの地方の歴史や文化への造詣の深さと遊び心があふれていて、どこから読み始めてもあの観音さまには、こんないわれがあったのか、こんな歴史があったのかと驚くことだろう。

全二十三章の中でも、ちよつと変わった「第十七章 夏目友人帳聖地巡礼」を紹介したい。観音巡礼に関心がある世代で、「夏目友人帳」といわれてピンと来る人は、人吉市以外ではそれほど多くないと思う。「夏目友人帳」は熊本県出身の緑川ゆき氏の少女漫画で、テレビアニメ化もされた人気作だ。一見、相容れそうもない少女漫画と観音巡りの組み合わせに、筆者の引き出しの多さには驚くばかりだ。

主人公夏目貴志は、親を早くに亡くしたうえ、普通の人には見えない「妖^{あやかし}」が見えるため周囲になじめず孤独に生きてきた高校生。引き取られた先で知り合った妖たちと触れ合ううち、癒され成長し人間の友人たちとも心かよわせるようになるという幻想的で優しく、美しい物語である。作者が作品の舞台に人吉近郊の情景をイメージしていることから、アニメの中には人吉球磨に実在する風景が多数登場する。作品を愛するファンにとって人吉球磨地方は主人公をはじめ妖たちが暮らす「聖地」なのである。

筆者が「夏目」を取り上げたのは、単に景色が

使われているだけではなく作品の世界感と人吉球磨のもつ独特の雰囲気と共通するものを感じたからだろう。アニメや漫画をきっかけに若い人にもこの地域の文化に関心を持ってもらい、相良三十三観音巡礼のような素晴らしい伝統を知ってもらいたいと思ったのかもしれない。どんな



「夏目友人帳 公式サイト」より <http://www.natsume-anime.jp/>



生善院（球磨郡水上村）

市房ダムの景色が使われた「水底の燕」の回は、人間に思いをよせる妖の切ない恋の物語で、これもまた人氣が高い。祓川橋の風景は、夏目の友人・田沼要の家の近くという設定になっており頻繁に登場する。祓川橋の周囲は、市房山神社の神域の中にあり杉の巨木が茂る真正銘本物の

にしていた神社として、社殿から参道や周辺の景色までがほぼそのままに再現されているため人氣の聖地だ。筆者が紹介する雨ごい伝説は、ファンの間でもよく知られていて、アニメオリジナルエピソードに出てくる「露神様」のモデルではないかと言われているそうである。

の「聖地」だ。アニメの監督である大森貴弘氏はインタビューの中で、夏目友人帳に出てくる妖の棲む「八ッ原の森」は市房神社の森をモデルにしたと語っている。ここでも夏目の聖地と本物の聖地が重なっているのは面白い。夏目の聖地巡礼者は、知らず知らずのうちに球磨の聖地巡礼も体験しているのだ。

市房ダム、祓川橋と合わせての巡礼ポイントの24番札所生善院は「猫寺」としても有名だ。夏目にも「ニャンコ先生」という妖が化した猫のキャラクターがおり作品の Mascot 的存在だ。夏目ファンは猫好きが多い。「猫寺」と聞いて見過ごすはずはない。筆者が紹介する玖月善女の化け猫伝説を知れば、さらに詳しく知りたくなるだろう。

このように伝統的な観音巡りも、視点をかえればまだまだ新しい発見がある。人吉球磨には、それだけの魅力があると、あらためて気づかせてくれるのが、このガイドブックの最大の特徴である。いままで、観音巡りに興味のなかった人も、手に取ってみれば引き込まれるに違いない。

【つえむら・かずよ／水俣市】

なに素晴らしく歴史ある文化であっても、それを知る次世代の若者がいなければやがては滅びてしまうのだから。

十七章では、「夏目」に関連する場所として天狗橋、戸越の毘沙門堂、田町菅原天満宮、雨宮神社、市房ダムの五か所を巡る旅を提案している。

天狗橋と戸越の毘沙門堂周辺はアニメの中で主人公の通学路になっていて、たびたび登場する場所だ。原作漫画にはないアニメオリジナルの回では天狗橋が主役といえるエピソードもある。そこから徒歩で行ける場所にある第四札所の三日原観音堂なら、聖地巡りの若者もお参りしていることだろう。三日原観音堂は相良藩歴代城主のお月見場所だそう。夏目に出てくる宴会好きの妖が喜びそう。そんな想像をしながら、観音さまをお参りするのを楽しんでいる。

田町菅原天満宮は、アニメ第2期のオープニングに登場した。小さな神社の姿が印象的で、聖地としては最も有名な場所になった。神社には夏目のイラスト入り絵馬がかかり、訪れたファンが思いを書き残す探訪ノート、記念スタンプまで置かれていてちよつとした観光名所である。

そんな、にわかに華やいだ場所の崖の真上には、相良家の

歴史上、最も謎多き人物である相良清兵衛、内蔵助頼安親子の墓があり、「怖い」ところだと筆者はいう。

オープニングで田町天満宮とともに描かれているのは「祓い屋」名取周と彼が使役する三人の「式」だ。「祓い屋」とは祈禱師や陰陽師のようなもので、「夏目」のダークサイドを象徴する存在だ。作品スタッフが相良清兵衛の墓のことまで知っていたとは思えないので偶然だろうが似合いすぎる配置である。

雨宮神社も、第4期のオープニングに登場している。本編でも小さい頃の夏目が、いじめから逃れるための隠れ家

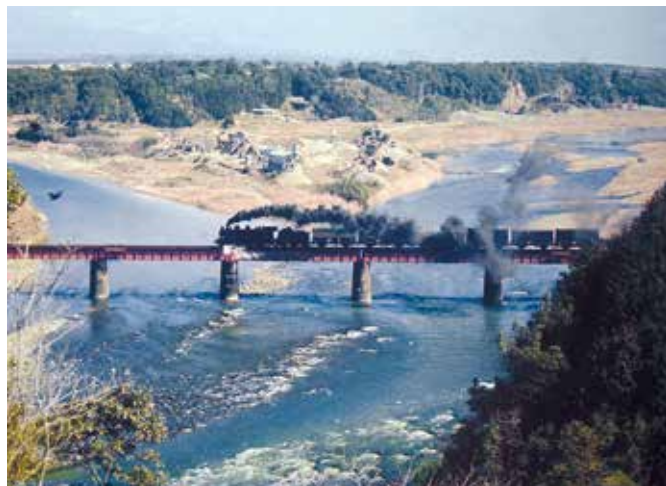


菅原天満宮（人吉市田町）



橋桁増設工事（昭 48.10 福井弘氏）

あり牛馬用の草刈り場だったのと
と。鉄道省時代のこの橋も昭和49年
10月に橋桁が増設され周辺の水害も
緩和された。川原では毎年二百十日
に川神（こうじん）さんの祭りがなされる。
鉄橋を渡り切った右手に弥生時代
（6世紀末）の京ヶ峰横穴古墳群が
ある。奥行き2・6 m、高さ1・8



昔SLが走る第四橋梁、左川辺川、右球磨川（昭 50.2 福井弘氏）

mの正方形で表面の彫刻が特徴。そ
の横手の天下神社脇から線路は第二
第二の高柱橋梁、井沢（いざわ）の踏切へと続
く。



京ヶ峰古墳



第四橋梁と木綿葉大橋（奥）

河口から上流まで、その駅を訪ねる

球磨川の駅・ものがたり



連載その18 くま川鉄道・肥後西村駅

熊本産業遺産研究会 松本晋一



開通前の架橋工事（操重車大正 12）

開通記念絵葉書の第四橋梁（下）



昔は川辺
川・球磨川
合流点の中州
は畑で、鉄橋
下にも中州が
想像する。
景であろうと
れば、さぞ絶
この鉄橋と二
つの瀬を眺め
た。船縁より
釣師が大勢居
る。船縁より
た。船縁より
この鉄橋と二
つの瀬を眺め
れば、さぞ絶
景であろうと
想像する。
釣師が大勢居
る。船縁より
た。船縁より
この鉄橋と二
つの瀬を眺め
れば、さぞ絶
景であろうと
想像する。

川村駅から右カーブを過ぎると直
ぐに球磨川第四橋梁（起点から5 km・
大正13年川崎製作所製）にさしかか
る。この橋は全長238 m、湯前線
では最長の鉄橋、架橋には専用の操
重車が使われた。川面から11 m高の
車窓から左手に球磨川と川辺川、そ

して高柱川、小瀬川（こせがわ）の四合流点に
位置し、上流には木綿葉大橋、右手
下流には日高ノ瀬の急流と岩畳（な
め）、三波迫ノ瀬へと続き、対岸山手
には京ヶ峰の森が見渡せる他に類の
ない撮影スポットである。盆過ぎの
鉄橋下には尺鮎を狙う関西、関東の

肥後西村駅

大正13年3月30日、開通当時の最初の駅。起点から5・8 km、川村駅から1・4 kmの球磨川左岸に位置する。



航空写真 (①第4橋梁②球磨川③川辺川④日高の瀬⑤京ヶ峰古墳⑥木綿葉大橋⇩肥後西村駅⇧西村)

駅名は球磨の三荘の一つ、須恵ノ荘の館が免田にあり、その西側に在ることから西村と呼ばれたことに由来するとされる。所在地は球磨郡錦町大字西209-5、1面1

線の駅だが以前は中央に渡り線の在る2面2線の駅。今は下りの2番線側ホームはなく、桜の並木が東西に走り、シーズンには菜の花とのコラボで春の風情を醸し出している。

昭和46年2月の合理化で無人駅となったが、昭和48年春には県立球磨



新旧の肥後西村駅正面 (昭58.2 福井弘氏)



新旧のホーム比較 (下り方向・右は急行くまがわ 平6.4 福井弘氏)



商業高校(現・球磨中央高校)が創設され、無人駅の乗降客数は沿線でも多いとのこと。昭和54年の1日平均乗客数は704人(内21人が一

般客)に増えたが、平成23年度の乗車人員は1日255人(乗車のみ)。大正15年の新鉄道旅行案内「駅勢」には1日乗客258人、降客237

人、「見るべきところ」には、内門に亀塚古墳、駅の西1000mに2つの横穴古墳、旅館は東屋、名物には梨(二貫七十銭)、牛蒡(二貫、四十銭)との記載がある。

たそうである。日通も来ていた貨物取扱も昭和37年に廃止される。以前にはモーターカーを保有する保線区詰所も在った。

以前、木造の駅舎のあった駅構内は、平成9年に駅舎が改造され、壁面にはブルーツの里・錦にちなんだタイル張りの絵が描いてある。

今はセメント造の駅となり昔の風情は無くなったが、当時の引込線の痕跡が少し残っていた。

貨物ホームには1本丸太アームの起重機もあって、昔は木材や木炭、梨、西瓜、米の出荷が多かつ

球磨川右岸・井沢の北側、高原には、昭和19年に出来た人吉海軍航空隊跡がある。近年、その施設跡は戦争遺産として注目を浴び、地元新聞には



新旧のホーム比較 (上り方向)



旧貨物引込線跡(道路)と貨物ホーム跡



記憶の落し穂

その ⑮

絵と文／坂本福治



多良木高校の校長

高校を卒業した昭和三十一年、画業のため上京したいのだが、何のつてもなく、もんもんと過ごしていた頃、奇跡的な縁で、那須良輔さんの来宅を受けた。それまでに描いた石膏デッサンや油絵を見て頂いた。良輔さんは、「何でもいいから描いたものを送りなさい。そのうちに呼んでやるから」と言いつて帰られた。

母校の人吉高校は卒業して、遠いので、近くの多良木高校の美術部室で描かせてもらうよう頼みこんだ。ここでは、石膏が母校のと違うので、とても新鮮で夢中で描かせてもらった。そして良輔さんから手紙が届き、上京の日も決まった。そこで、多良木高校の校長先生にお礼と報告に行った。松崎貞之先生だった。とても感心された。

「君は、それくらいのこと、礼にきた。その心を大事にしなさい。うちの生徒たちは、就職の世話をしても、誰一人礼に來ない。」と言われた。その後、先生は転任され、ご無沙汰のままである。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】



井沢を結ぶ木綿葉大橋と
そこから見た第四橋梁（下）

時折、戦時下の様子が特集されている。戦後、その1400mの滑走路跡には米軍の輸送機やセスナ遊覧機他が飛来、筆者らも中学時代そのセメント滑走路をホンドスーパーカー号で最高速度を競った思い出がある。以前は木造仮橋と渡しだったのが、木綿葉大橋の完成（281m、昭和



55)で、駅北側の相良村井沢と錦町西村が結ばれ駅が便利になった。傾斜2・8%のこの橋からも、第四橋梁を渡るディーゼル列車が良く見える。橋の川上は高木堤防、六番堤などと呼ばれ、砂利採取場も有る綺麗な

な川だったとのこと。

この駅は旧西村の商店街にも近く、バスの通う旧道には老舗の焼酎屋、農協、錦西小、錦中学校他がある。昭和40年にこの地区は錦町となり、近年、その先の旧国道沿いに機械・電気・繊維の企業群が誘致され工場地域として発展、今では国道沿いの錦町役場周辺が地元産業と商業の中心地となっている。

〈参考資料〉

- ・新鉄道旅行案内 大正15年9月 評論之評論社
- ・錦町史第3巻 平成4年9月 協和印刷
- ・球磨の駅 肥後西村 昭和56年11月23日 人吉新聞
- ・前掲「熊本の駅と港」熊本の風土とこころ③昭和58年
- ・熊本日日新聞社編「各駅停車、全国歴史散歩 熊本県」河出書房 昭和58年
- ・くま川鉄道開通20周年「盆地を走る」駅シリーズ肥後西村駅 平成21年5月11日 人吉新聞
- ・若手学会員のリレー連載41山本研央「球磨川第四橋梁」平成28年1月25日 人吉新聞
- 資料提供…堀井弘氏
- 聞き書き…岩本正輝氏、村山ウメエ氏、西村駅近隣の皆様



楼門前の寅ロープ班



定吉と【マグロの竹吉】

メンバーの一人が、「定吉つあんは凄
い。宮司さんば拍子木で呼びなつた」と
言つたので皆大喜びしていたが、東側
の鳥居から境内に入ると参集殿の前で
直会参加者組に捕まつてしまい、吉衆
は全員参集殿に上がるこゝとなつた。
ここまでの話を聞いただけで、宮司さ
んの指示で連れこまれたのが理解でき
た。罰かぶつたところだろうね。
直会なほらいに参加しておられた方々に吉衆
の紹介が終わると、一升瓶に半分ほど
残っている焼酎を勧められた。この一升
瓶に入っている焼酎を、吉衆で飲み干
さなければいけなくなつたのだ。呑め
ない定吉の困った顔が浮かぶ。ひとり
は鹿児島島の伊佐市まで、もう一人は鹿
児島空港まで運転をしなければならな
い。焼酎を生きで飲むのは、女性には無
理な話である。定吉の他に残る男は【マ
グロの竹吉】しかない。

吉組には「寅ロープ班」というグルー
プがある。青井神社の清掃作業が主な
役割であるが、神幸行列の馬に観衆が
蹴られない様にするために、寅ロープ
を持つて境界線をつくるメンバーであ
る。昨年は、トラック協会や青井さん
継承部の方たちと協力して行つた。
おくんち祭りのメインイベントであ
る神幸行列も無事に終わり、参加者に
よる宴会がＪスタ（吉組詰所）で始ま
つた。しばらくして、青井神社の夜の催
しを見に行こうと8名が出て行つた。

定吉もそれに参加してしまつた、と
言うより、彼が案内をするといい出し
たのである。東側参道を通ると参集殿
での直会の賑わいが聞こえた。赤い顔
の宮司さんを見つけた定吉は、得意の
拍子木を取り出しリズムを取つた。そ
の音に気付かれた宮司さんが窓際から
顔を出され「今日はお世話になりました
た。どうぞ、上がつて下さい」と言わ
れたが、どちらかと言うと下戸ばかり
のメンバーは、丁重にお断りをしたそ
うである。

人吉観光案内人物語

住 吉 則 昭

定吉が行く

— 18 —



© Keiichi Murakami

九州相良藩「吉組」大番頭 鳥飼 博

ひつくり返り事件と 飛び込み事件

【銃吉】の店「マスカット」のトイ
シで目まいを起こし座り込んだ定吉を
看護していた【平吉】から、「主宰は、
疲れの溜まつたらすぐたつです」との報
告を受け、賑わつていた宴はお開きと
なつた。帰りのタクシーの中で定吉に声
を掛けると、「大丈夫ばい。ちよつと酔
うただけたい」と応じたが、触れた手
がとても冷たかつた。

次の事件は1ヶ月後のおくんち祭り
の日だつた。



おくんち祭りの神事「寅の
刻菊破い」



寅ロープ張りとかまモン



神幸行列の福川宮司

定吉は、俺の思いを察してくれと祈りながら一口飲んで、【竹吉】に「一升瓶を渡した。【竹吉】の話によると、「俺は、結構な量は、飲んだですよ。定吉さんには、一合位しか残さんだったです」と言う。もう返って来ない筈の一升瓶を受け取る時の定吉の心は、泣き崩れていたそうだ。「えいぐそ」と死ぬ思いで「一升瓶を空けてしまった定吉は、身も心も崩れてしまい座り込んでしまった。時が経つに連れ目が回る定吉は、【竹吉】と【久七越えの伊佐吉】に抱きかかえられる様に「JUSTA」に帰還した。

私の顔を見るなり、「こつどんな、俺いに焼酎ば4合も飲ませたとばい。どい、竹吉もちいとししか飲まんとじゃつでな。大体、ぎゃん時にや大番頭が居らんばんとじゃつもん」とお鉢が回ってきた。1合が4合に膨れ上がった。

ていたので、もう連れて帰った方が良いという事になり、運転手付きでお帰りになった。自宅まで送り、玄関に入られるまで見届けてもらったので安心していたが、ひっくり返り事件はその後に起きていた。実家に出かけられていた定吉夫人が、主人はまだ帰っていないのかと玄関を開けると、体はどうにか屋内に上がっていたが、頭は玄関土間に残っていたそうである。夫人は定吉が倒れているのを発見し、大層驚かれた様だが、焼酎を呑んだ時の臭いで酔っ払っているのだと判り安堵されたそう

だ。その翌朝、「JUSTA」に来るなり「朝っぱから鬼嫁に、たいぎや怒られたばい。ほらほら、見てんない」と、足元もおぼつかない定吉がスマホを差し出した。青年会議所の小川さんからメールに「いや、昨日は素晴らし



駅前通りの定吉

い呑みっぷりでした。流石です」と書いてあるのを読ませるためである。どうしても4合は呑んだと言いたいらしい。意外にしつこいのである。

焼酎のひっくり返り事件の他に、「飛び込み事件」があるらしい。この事件には私は関係していない。数年前のおくんち祭りでの出来事らしい。青井さんのおくんち祭りの神幸行列の前日に、蓮池周りにはかなりの雑草が残っていたそう、神様が通られる道だからと除草を始めた。その作業中に場所を移動しようとしてふらつき、蓮池に頭か

ある様で、雨が降る前には特にふらつく事が多い。多くの吉衆の主宰である定吉の健康を祈るばかりである。



※映画「おじいちゃん 死んじゃったって」の人吉カルチャーパレスでの上映会は、10月31日に開催される事は確定していますが、詳細が判っておりません。決まり次第、相良藩【吉組】FBページにてお知らせ致します。

【とりかい・ひろし／人吉市】



高野寺の味岡住職

らドボン!! 余りにも恥ずかしかったので、周囲に気付かれない様に定吉号をとばして自宅に帰り、着替えて青井さんに戻って作業を再開した。最後まで除草しようと夕方まで頑張っている、子供さんと近くの温泉に行かれる高野寺の味岡和尚と出会った。温泉から帰られる時まで作業を続けていたの

で、子供さんがお寺から冷たいジュースを持ってきてくれた。「旨かった! 世の中にぎゃん旨か飲み物のあったじゃるか」と思ったそう。その後和尚さんは風呂上りにも拘わらず除草作業を手伝って下さった。これが縁で味岡和尚との付き合いが始まり、高野寺の広報係長定吉として活躍することになった。ちなみに現在は、広報部長に出世したと定吉は言っている。

「名刺でも頂いたんですか」と尋ねると、「俺が勝手に作った役職たい」と言つて、映画「ふうてんの寅さん」の主題歌にある「ドブに落ちても根のある奴は、いつかは蓮の花と咲く〜」と口ずさみながら「JUSTA」を出て行った。

私を知る2回のひっくり返り事件は、焼酎が原因という訳ではない様に思う。どうも三半規管に問題が

造林鎌

溝口隼平

祖父の初盆のお参りに家族で帰郷した。昨年95歳で逝った祖父は、当時植民地だった台湾で軍隊に徴用され、激戦地ラバウルに飛ばされた。そして相当運が良かった生き残りで

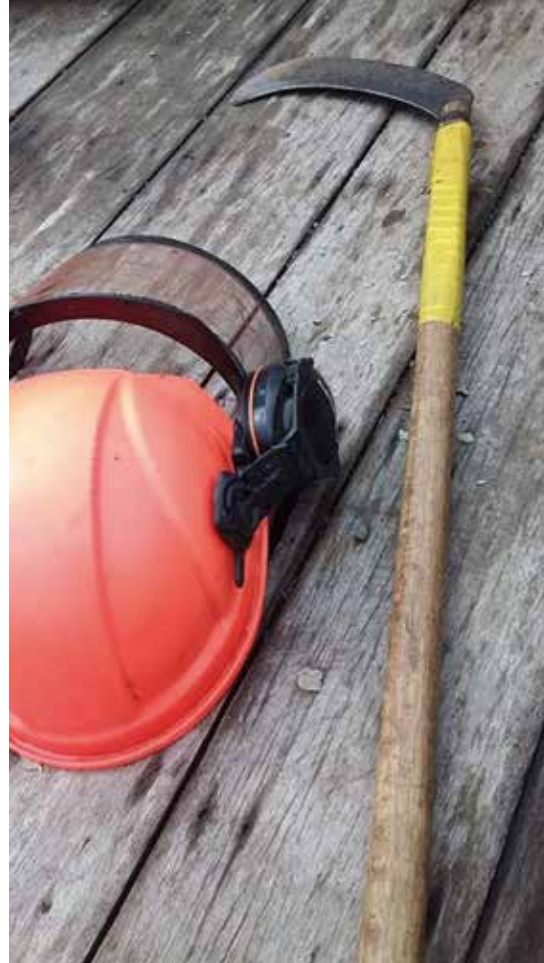
あった。

台湾生まれの祖父は、九死に一生を得た壮絶な体験をしたのにも関わらず、軍属という形での徴兵だったの

た後も相当な苦勞をしたと教えてくれた。
普段温厚だった祖父が、歳を重ねて更に仏のような顔になった晩年に、怒りと恐怖、恨み節を滲ませながら絞り出すように語ってくれた言葉のひとつひとつが思い出される。戦中の話は本当に数えるほどであった。戦後、芦北での塩作りに塩の販売、山仕事、鮮魚の扱い、とにかく何でもしたと教えてくれた。

多彩な職をこなした祖父は、何でも器用にこなすスーパーマンのようだった。その往年の元気だった頃の、祖父の笑顔を思い出す終戦の日。

研がれた後、油紙にきれいに巻かれて保存されていた造林鎌と、「ラバウル記念」と彫りこまれた実弾で作られた印鑑が、祖父から譲り受けた大



今も大活躍している祖父が残した造林鎌

事な大事な宝物である。土佐の銘が入る造林鎌は今も私の元で、冬季の植林事業の仕事道具として、庭の維持管理の道具として日常的に大活躍してくれている。

いつか、ルーツの一つである台湾に行き、祖父の生まれた土地を見てみたい。でかいママシのような毒ヘビを食用として食べていた土地らしい。小柄だが、健脚でパワフルだった祖父の秘密かもしれない。食が豊かな土地だ

と、移住している友から聞く。祖父からもっと詳しく、色々と聞けば良かった。地名や諸々。戦時中の様子を話しながらない祖父から、直に聞けただけでも良かったのだろうけれども…。平和を祈る、維持するために、はてさて何が出来るか。

後日あった親族の集まりで偶然、親に色々と聞くことができた。法事の合間、テレビのメモリに残されていた番組を見ていたら偶然、祖父の生まれ



実弾で作られた印鑑

た土地の歴史をガイドする方の紹介とともに、生まれ育った土地の現在と当時の様子が写された写真が流れたのだ。それを見た父が、おもむろに立ち上がりメモを持ち出し、家族の集まる場で祖父の

出生から現在までの記録を話したのだ。

生まれ育っていた土地は、当時二万人もの開拓団がいた花蓮という場所らしい。祖父家族は熊本県南、鹿児島の開拓団として花蓮港近辺に住んでいたとのこと。そこで出会った祖父の両親は、戦中から引き揚げの中で死別。現在の実家の付近の出だった母の親族を頼り、現在に至るらしい。

祖父が徴用後高雄から出兵した入隊当時の隊名や終戦時の所属や階級まで教えて貰い、手がかりが増えた。

祖父が、呼んだのかもしれない。台湾行きの手がかりが二つ増えた。

【みぞぐち・じゅんぺい／Reborn代表（リバーガイド）、冬は山師。八代市坂本町】

安養寺をあるく

森山 学

八代市の本町三丁目、アーケードにむかつて二重門を開く寺院がある。浄土真宗本願寺派の光壽山安養寺である。バス停は「北荒神町福祉センター前」、「八代宮前」に近い。

もともと安養寺は駿河国で創建されたが、江戸時代初めに八代城主・加藤正方の母・妙慶^{みょうけい}禅尼^{ぜんに}の招きにより、八代へ移転した。当時の八代城はまだ球磨川の中洲・麦島にあり、その麦島城下町に、正方の父・可重^{よしげ}の菩提所として創建されたわけである。

元和五年（一六一九）、地震によ

り麦島城が倒壊すると、徳淵の津対岸の現在地に城郭と城下町を再建する。八代城下の繁栄を支えた要因に、この徳淵の津の存在をあげられるが、その津口から八代城大手門へ北上する道が「広横町」である。安養寺はこの広横町に移転する。まさに八代城大手口にあつて、徳淵津口に近接する二等地である。八代の顔といったところであろう。

またこの位置は本町筋の西方にあたるわけだが、逆の東端には、正方自身が檀越^{だんおち}である、父・可重の菩提所、日蓮宗の浄信寺が位置する。城下町

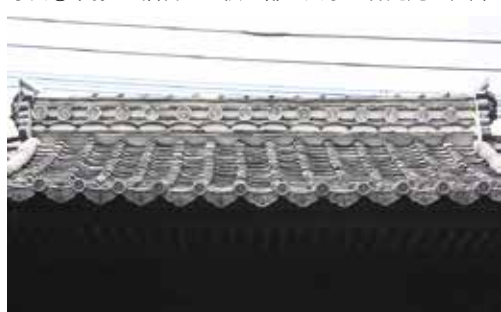
の宮ノ地口（のち萩原口）近くである。これら両寺院は正方時代の城下町にとつて、重要な役割を担ったと言える。

ところで当時の境内の門は、もちろん広横町に開いていたが、境内裏手是一本西隣の「狭横町」に接していた。この狭横町は、猫が屋根からむかいの屋根へ飛び移るような狭さだったようだが、いまでは県道四二号線が貫通し、広横町よりもうんと広い。

この狭横町が本町と交わるあたりに、いまの安養寺がある。この地に移つたのは、加藤家改易（寛永九年＝一六三二）後の細川三斎時代（一正保二年＝一六四五）である。一帯は八代城の裏鬼門にあたり、現存の安養寺、正教寺のほか、教覚寺、善行寺、長福寺（のち東光寺）、円応寺が集中



写真① 門。一層目の屋根上部に大小の軒丸瓦の装飾



写真② 門の大棟。軒丸瓦、平瓦の装飾

し、一種の寺町が形成されたわけである。それにしても安養寺からしてみれば、ほんの少し移動しただけだが、大手口という城下随一の立地から外された意味は大きい。

この移転時に本堂建物も移築したであろう。「八代市史」では、元の建物は寛永元年（一六二四）に母没後

正方が母に代わり檀越となり、安養寺を両親の菩提所としたときに再建したものとして推察する。

それでは境内へ進もう。広横町時代の境内は東に門が開き、本堂は東を向いていた。いまは境内の北、本町アーケードに門（寛政三年＝一七九二）を開く。鐘楼門である。なんとと言っても、

アーケードに突如現れる風景に驚きがあつていい（写真①）。

その一層目の屋根上部と二層目の屋根の大棟は、軒丸瓦や平瓦を漆喰で固め、たくみに装飾的に扱っており、なんとも目を楽しませてくれる（写真②）。大棟、隅棟の鬼瓦の表情もこつ

虹梁^{こうりょう}には藤の彫刻。浄土真宗の宗紋、下がり藤に通じるのであろう。

門をくぐると右手、つまり境内の西側に本堂があつて、門を向かず東を向いている（写真③）。広横町時代も東向きであった。阿弥陀如来を本尊とすることから考えると、阿弥陀如来の浄土、西方にあるとされる

極楽浄土が、現世を向いている様子を表していると言える。

いよいよ本堂を拝ませていただく。まず正面軒下に連なる組物などの豊かさに目を奪われる。各々の部材も大きい。

向拝（参拝のための庇）と広縁の柱や虹梁の上にある組物の大斗・巻



写真③ 門から入って右手にある本堂。軒下に連なる組物

斗は、皿斗つきである。向拝の虹梁には雲竜。向拝の柱と広縁の柱をつなぐ虹梁には葡萄が彫刻され、その上に大瓶束、海老の背中のような形の海老虹梁が二本、さらに手挟がのる（写真④）。手挟は両サイドは波だが中央二か所は菊である。

広縁と建物外周の組物は外へ飛び



写真④ 手前が雲竜の向拝虹梁。四角い升（斗）はどれも二段重ね（下段が皿斗）。葡萄の彫刻の虹梁の上に丸い束（大瓶束）。その左下段、右上段に海老虹梁。さらに上の波の彫刻の部材が手挟

出す出組と呼ばれるもので、これが柱の上だけでなく虹梁の上にもあるため、ポリウム感がすごい。よく見ると、向拝、広縁、建物本体と、奥に行くほど組物の意匠が控えめになっており、作り手の意図も伝わってくる。

一方、広縁の床は、台形の板を交互に向きを変えて張り合わせており、材料を有効活用せざるを得ない状況も見える（写真⑤）。

内部は内陣の前に柵内がある浄土真宗の典型的な間取りである。外陣



写真⑤ 台形の板が張られた広縁の床

の中に二本の中柱が立ち、それより内陣側が柵内にあたる。

内部の組物もすごい。組物がいくつもの方向に外へ飛び出し、各々の上に巻斗を重ねていく。二段階、三段階に重ねるので、二手先、三手先とよぶ。巻斗をのせる部材は彫刻された肘木や、尻尾のように垂れ下がる尾垂木である（写真⑥）。特に内陣前



写真⑥ 左が内陣境の柱の組物（三手先）。中央が中柱の組物（二手先）



写真⑦ 飛び出す龍のひげ。鉄製か？



写真⑧ 宮殿。上の三角が千鳥破風。下のカーブが唐破風

はこれに加え、金の欄間、蛇腹支輪、彫刻板支輪と賑々しい。このように手の込んだポリウム感のある組物がずらりとならぶ風景は、他に例のない八代随一のものである。

また中柱間の虹梁の彫刻では、向拝の雲竜のテーマを繰り返す。こちらの龍のひげは、にゅーと飛び出している（写真⑦）。

いよいよありがたさを感じつつ内陣を見上げると、蓮の絵の来迎壁、彩色された来迎柱、言うまでもなく立派な組物があり、その前に宮殿（厨子）がある（写真⑧）。二層構成のいわゆる楼閣建築である。上層の屋根は入母屋造で、正面に千鳥破風がつく。下層正面には曲線を描くいわゆる唐破風がつく。まさに極楽浄土に建つ極

楽宮殿そのものである。

五年後には築城四〇〇年をむかえる八代城、その八代城を築いた加藤正方の寺院も要チェック。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】

ツクシイバラの守り人

球磨川ツクシイバラの会 桑原智子



撮影／段村善昭

約50年前、花好きな私の母は、球磨川河川敷に咲く花を見て心が躍ったそうです。その後「確か今頃だった」と何度か同じ道を通つたらしいのですが、とうとうその花に出会うことはなかったそうです。その50年後に娘の私が球磨川河川敷に咲く花を見て、母と同じように心が躍り、後でその花がツクシイバラと知りました。

司馬遼太郎が「豊かな隠れ里」と本の中に残してくれたように、球磨川河川敷にツクシイバラという野

生のバラが群生する里を自然界は残してくれました。

何て素敵なことだろうと嬉しくなります。

野生を野生のまま残すということとは本当に大変なことです。我が家は農家で、田植えがちょうど終わったところですが、ジャンボタニシや鹿が植え付けたばかりの苗を食べに来ます。夫は畦草もあまり切りすぎるとカエルも住めなくなる。ジャンボタニシや鹿、スズメが来ても食べてもしいてると、おそろかな農業をしています。私は今、ジャンボタニシに苗を食べてしまわれないように拾い出したりしています。自然との共存、お互いを生かす関係は簡単なのでもなかなか頭で描くようにはいきません。

野菜の種にしても自然界は交配していきますから固定種のまま残すのは簡単なようでも配慮が必要で難しいのです。

ツクシイバラも同じだと知りました。でも、そのことに、これでいいのだろうか？ と手探りで保護活動を続けている人たちがいることを知り、心動いたのが除草作業参加へのきっかけでした。

その人たちは勉強会を何回も開き、自分たちも学びを重ね、周りへの理解も少しずつ広げながら、保護活動を行っていました。除草作業ではカズラ（葛）がツクシイバラを覆つて成長を阻害することのないよう、覆いすぎたカズラを途中途中で切っていました。全て手作業の地道な作業が続きますが、皆さん

実に楽しそうなのです。

こんな優しい人たちに囲まれてツクシイバラも、さぞ嬉しかろうと思いつつながら、私も足を運びました。たぶん地球にはこのような地道な活動を続ける「心ある守り人」があちこちにいて、地球の均衡が保たれている部分もあるのではなからうかと思えます。

少しずつですが、ファンも増えて毎年開花に合わせて遠くから足を運んで下さる方も多くなりました。私は今、このツクシイバラの守り人たちと一緒に活動に参加させてもらっていますが、思いの深さの違いを肌で感じるのが度々です。

守り人は時に母となり、父となり、友人となり、毎年の開花を楽しむに活動が続いています。人が中

心ではなく、ツクシイバラがいつも中心にあります。

今年公式発見から100年目を迎えました。これから先の100年後もツクシイバラが咲く自然環境が保たれ、多くの人の目を楽しませてくれますように。100年後も、できれば心ある人たちとの関わりが続いていますように。そのための本音の会話が続きます。

ツクシイバラの守り人、とても素敵な仲間と出会うことができました。

【くわはら・ともこ／農業、球磨郡錦町】

くまがわの神さん仏さん 13 球磨村お堂巡り その②

宮原信晃

球磨村が平成3年に発行した「仏

がみちびくふる里めぐり」の冊子に貼付されている地図をじっくり見てみると、美しい女性の顔にも見えて来る。

上唇が大瀬、可愛いお鼻が菰、そして輝くお目目が神瀬に位置する。



球磨村の地図。冊子「仏がみちびくふる里めぐり」より



その神瀬集落へ行ってみましょう。

神瀬の中心部には神瀬住吉神社がドーンとある。

その近くには、曹洞宗の神照寺、上に乗光寺（真宗本願寺派）、球磨川沿いに信証寺（真宗仏光寺派）と神様も仏様も仲良く暮らしてお

られる場所。

そんな神瀬の集落から上流に3キロほど川内川に沿った道を登ると「大岩阿弥陀堂」がある。

間違っても、どんどん、どんどん、まだかな々と登って行くと大槻へ出てしまうから要注意。慌て者の私は二度も道を迷って、一度目は大槻へ。もう一度は川島まで行ってしまうことあり。

ご注意下さいませ。

神瀬から、きつちり3キロ。道端で作業をされている人達にお尋ね下さいね。

さて、「大岩阿弥陀堂」は川内川の上流を見上げて、道の右側の畑の上にあつて、大岩というほどに大きな岩を工夫してお堂を作っている。

と驚いた。

「阿弥陀さんが邪鬼を踏んでる?」

そんなことがあるのだろうか。毘沙門天などは邪鬼を踏む姿は、人吉でも球磨郡内でもたくさん見るとはあつても、あの阿弥陀如来さんが何で、邪鬼を踏むの?

持参したスマホでSNSを使ってネットに流すと、玉名の大倉隆二先生から連絡が来た。

「実物を見ていないのでよく分かりかねるところもありますが、邪鬼ではなくて獅子が対座の猫足の下に潜り込んでるようにも見えますがいかがでしょうか」とのこと。

なるほど、邪鬼ではなくて、獅子かもしれないなあ〜と目をぱちくりして見入った。

大人の女性の足でやっと登れる程の高さのある岩の階段を登り、お堂にご面会する。

今日はご近所の大岩フミエさん(83歳)がお越しになつていて掃除をしておられた。お堂の中に入つて一礼し厨子を開いて阿弥陀如来像に御対面。

「なんまんだぶつ」。

この言葉は球磨村でも山江や相良でも球磨人吉なら何所でも使える念仏の言葉。お地藏さんにも、観音様にもお釈迦様の前でも使える共通の念仏言葉なのだ。「なんまんだぶつ」と唱えつつ、阿弥陀様の美しいお顔、ケガをされている手の指、腰の周りの衣のシワから足へ向けて衣の線を見つつ、「あれ!」



「大岩阿弥陀堂」と大岩フミエさん

柳人があじわう漱石俳句

— ⑱ —

いわさき楊子



傘を菊にさしたり新屋敷

(漱石30歳)

漱石は4年3カ月の熊本滞在中にかなり旅をしていたことが記録に残っている。後年、小説『草枕』や『二百十日』の題材となったのも熊本時代の旅。

鉢の菊にまで傘を差しかけてある家があったのだらう。いまもある新屋敷という地名は熊本人のあこがれの居住地だ。漱石夫婦が住んだ大江の家(第3の家)あたりで詠んだとおもわれる。その家は水前寺に移築保存され公開されている。この大江の家から、年の瀬に山川信次郎と出かけた小天温泉への旅が小説『草枕』となった。

戸下温泉

温泉湧く谷の底より初嵐

内牧温泉

湯槽から四方を見るや稲の花

北側は杉の木立や秋の山

阿蘇神社

朝寒み白木の宮に詣でけり

鳥も飛ばず二百十日の鳴子かな

阿蘇の山中にて道を失ひ終日あら

ぬ方にさまよふ

灰に濡れて立つや薄と萩の中

立野といふ所にて馬車宿に泊る

語り出す祭文は何宵の秋

(漱石32歳)

これら7句は、まったくもって小説『二百十日』を連想させる。旅先の句を残していることは地元の人にとっては嬉しいことだ。漱石の泊った宿の確たる記録はないというが、残された句をあじわい、そして小説を楽しむことができる。

旅立ちの朝のスリッパ向け直す

ゴミ出し日思いだしてる旅の宿

【いわさき楊子／川柳誌「裸木」編集人、熊本市】



「大岩阿弥陀堂」の内部

実に面白い。これがお堂の面白さだ。
そこしかないお堂。そこでしか見ることの出来ない仏様がおられるのだ。
お堂の周りをぐるりと絵巻の欄間もそうだ。ここ、大岩阿弥陀堂

にしかない十二支の彫刻がそうだ。ね〜うし〜とら〜う〜たつ〜み〜うま〜ひつじ〜？
あれ！ ひつじの上に猿が飛び乗って次のとりの足を引っ張ってる！こんなおもしろい十二支の彫刻が他にあるだろうか。

話を聞いて、文章にして残さないと、「昔から聞いていた話」がなくなるのだ。明治の後期くらいの話なら、今の方々もご先祖の言葉を覚えておられる。
「本当の声」が「言い伝え」になり「伝説」になる前に、今こそ球磨村のお堂を廻らなければならないのだ。
手元の冊子になく、資料になく、村史にもない「生の声」を聞きに、次のお堂に向かおう。
さあて、球磨川のどこの支流を上つていこうか。「なんまんだぶつ」を唱えながら。

【みやはら・のぶあき／FBお地蔵さん調査隊代表・人吉おおくま座の会事務局】



上杉芳野の「あがつ段」⑩

チャリティーショーのご報告

8月11日という盆前にもかかわらず、あさぎり町須恵文化ホールには今年もたくさんの方々にお越し頂きました。

昨年の秋に

宮城県東松島市へ、皆さんからお預かりした義援金をもって、「芳野とゆかいな仲間達」は行ってきました。その時の東松島市から届いた感謝状の紹介から、今回の幕は開きました。

のバスガールへつないでくれました。
「下腹出る子、発車オーライ」で今年も成長した私の下腹をご披露しました。

さんが会場の隅々にまで歌と笑いを届け、多良木町の中垣つる子さん、椎葉豊美さんのお二人で「長良川艶歌」を踊って頂きました。さて、大笑いはそこからです。人吉市の藤原宏先生とご子息の康人先生の肥後チョンカケごまには会場が大爆笑。お父様の宏先



実行委員長の前田一洋さんのご挨拶



生の回したこまが舞台下へ落ちるといふハプニング。相良村のふきのとうさんに「あんずの夕陽に染まる



街」を軽やかに踊って頂き、人吉の永岡まゆみさんが「ジューピター」を、司会担当のあさぎりひろしさんに

は「夜明けのブルース」を歌って頂きました。

それから、私の早変わり3曲メドレーも何とか踏ん張って、人吉の琉球舞踊団「クワデサ」



さんにも踊りを披露して頂き、湯前町の瀬口佳代さんが九官鳥を、多良木レクリエーションダンスのみなさんが「ひとりでタンゴは踊れない」を、同じく多良木町の宮本和子、溝下貴子さんには「剣山」

のおはら会の人達に盛り上げて頂き、今回の義援金の目録を町村議会議長会長の村山昇さんにお渡しして後半へ。

を踊って頂きました。「さくら」で始まるバナナの叩き売りでは、人吉

あさぎり町の小・中学生20名による一期一会の方々には「流・クマソの夜明け」という曲で太鼓の競演をして頂きました。あさぎり町

漢和辞典は面白い

1
鶴上寛治

亜

漢和字典をひいてみて驚いた！ この字の第一義は《みにくい》だったからだ。以下《うぐ・あいむこ・分岐点・どもる声》と続く。子どものころから《日本は亜細亜の盟主》と教えられ、興亜とかいうことが輝かしく見え、「亜」という字は《素晴らしいもの・尊いもの》と思い込まされ、それがまだ消え去ってはいなかったのだ。亜流・亜熱帯・脱亜論・亜硫酸・亜鉛と、「亜」の本来の意を示す言葉にいくらかでも接していながら、それに気付かないまま大人になっってしまったのだ。

「亜紀書房」という出版社を立ち上げた友人がいる。東洋史学科の出身だったが、どういう意味でその社名にしたのだろうか？ 彼の持つ辞書には「謙遜」ということばは載っていないような男だった。奥さん、あるいは初恋の人の名前かな？ そういえば「悪」の字の上半分は「亜」だなぁ。「白亜の殿堂」の「亜」は《まず泥を塗り、その上にしろつちを塗る》。それが「亜」だ。聾哑学校・哑然、ウーツム。亜麻という植物から取る糸で織った亜麻布は、麻布よりもうんと高級だそうだ。エ？

凶

神社でおみくじを引き、凶・大吉兆。おめでとう。「凶」の字形は《死者の胸に施された不吉なしるし》だ。凶（兇）暴暴・凶（兇）悪・凶事——いいことは二つもない。しかし、ある方は「滅多に当たらない〈凶〉」というみくじに当たる、ということは少ない確率をクリアー出来た、というすばらしいことだ、とラッキーにとらえた方がいいのではないか」とおっしゃる。

「あなたも大吉、私も大吉、よかったね。」と、だれもかれもが大吉のオンパレードでは、きわめて普通の現象になり下がってしまい、有難味は薄らいでしまうのではないか。「胸」の字には「凶」の字がドカッと居座っている。あなたの胸にもだ。寝苦しくない？

【つるかみ・かんじ／人吉市】

の小口誠之さんの「ありがとう感謝」という歌にいつも感動です。

県内の自衛隊家族会の人達を引き連れて、大行進をしてガライきつかったです。

湯前の百花拳サークルさんが「太極拳24式」と「功夫扇」を、総合司会の竹原篤子さんが「古希祝」を、人吉の加藤久明さんには「愛する人はお前だけ」を歌って頂きました。

球磨郡レクリエーション協会の皆さんには「酔下」を踊って頂き、福岡の宮原良仕子さんには「炭坑節」を歌い盛り上げて戴きました。

た。あさぎり町の志水玲子

さんには「日本橋から」を踊って頂き、錦町の田代幸介さんが「HOME」を唄い、私とジェームスハワードさんとで最後は暴れまくりました。

熊本市から友情出演として来て頂いた少女舞踊団「ザ・わらべ」、子ども舞踊団「こわらべ」様の美しく華麗な踊りに会場は感動の渦でした。

本当に皆様には感謝ばかりです。今度とも、よろしくお願い致します。

【うえずぎ・よしの／ボランティア観光バスガール、あさぎり町上】

くまがわ狂句

村上鬼拳

見ちゃおれん 鉈は腰で掛けんかい
笑顔がステキ 百万本のバラよりも
無言電話 全神経が耳イなる
ごゆつくり 動くベッドもごいいます
勿体ない そろそろ個展開かんか
ごゆつくり 片目つぶって行く仲居
机の中 拉致された当時のまんま
さあて 二十四時間何んしゅうか
どぎやんした あぎやん「おしどり」だったつが
一寸だけよ だって抱き癖つくもん

【むらかみ・きけん／人吉市】

山に行こうよ!

その⑧

白馬岳

「人吉球磨ハイキングクラブ」通信より

標高 2,932 m

長野県北安曇郡白馬村

2017年8月1日(火)～8月5日(土)

参加者:10名



溪雪を下る



梅池湿原巡り

8月3日

調子が悪かった本石さんは小屋に残ることになった。白馬大池山荘5時45分出発。両側にお花畑が広がる登山道を登っていく。小蓮華山8時30分

岳を越えて白馬大池山荘に着いたのは16時だった。徳留さんは売店で靴を新調していた。その日の夕食は大きなカツが載ったカレーだった。

ここで段村さんが体調不良の為小屋へ引き返すことになる。

三国境9時25分、長野県・富山県・新潟県の交わる所で山頂までの眺望が素晴らしい。白馬岳山頂到着10時50分。雪が多くて展望は良くない。山荘で作ってもらった弁当を食べ、記念撮影などして11時45分出発。来た道を引き返し白馬大池山荘15時25分到着。夕食はまたカツカレーだった。

8月4日

白馬大池山荘5時45分出発。

登った道を引き返し梅池ビジターセンター10時40分到着。この日は長野駅近くのビジネスホテルで一泊。夜は反省会。

8月5日

朝のテレビニュースで台風情報を見ると、鹿児島県が台風5号の強風圏の端っこにかかりそうで、飛行機が飛ばさずかどうか心配だったが、どうすることもできず「信州善光寺」観光に出かける。壮大な山門、本堂には驚かされた。観光客の多さにも。

北陸新幹線など乗り継いで、羽田空港第2ビル、ソラシドエア79便の出発カウンターに行くと、搭乗手続きが一時停止となっている。他の便でも欠航のアナウンスが流れている。欠航になったらどうしようかと気をもむ。待つことしばし搭乗手続き再開。胸をなでおろす。

鹿児島空港には予定より少し遅れの20時過ぎに到着。今回の山行終了。

【徳澄正昭】



昭和36年発行の、深田久弥写真文集「日本アルプス」の中に次のような紹介文があります。
「白馬岳が北アルプスへの最初の見

参であつた人は少なくないだろう。初めての人を連れて行くのにいい山である。大雪渓があり、豊富なお花畑があり、眺望がすこぶる良い。」

また白馬岳の由来につ

いて、「始めは代馬岳田圃の代かきをする頃現れる雪形からそう呼ばれた。それが白馬岳となった。」との記述がありま

す。私たちにとしてはどうだったでしょうか。

8月1日

人吉を5時出発。鹿児島空港には早く着きすぎて、民間の駐車場は空いていなくて空港駐車場を利用した。空港にて、えびの市の人達と合流して

8月2日

不要な荷物をリュックに預けて、7時30出発。梅池自然園湿原巡りへ。ワタスゲ、ニッコウキスゲその他色々な高層湿原の花々を見ながら、木道をぐるりと回った。10時00分、梅池ヒュッテ。

荷物を詰め直して10時30分、白馬大池山荘へ出発。天狗廊下の残雪の所で昼食休憩。12時10分、ここから少し上がると、岩がゴロゴロした所を登る道となりきつい登りとなった。

こころ辺りで徳留さんの靴の前の方の靴底が剥がれる、その内両方共にはがれ、ゴムバンドで縛って登る。乗鞍

JAL機で羽田空港へ。迷走台風「5号」は気にはなっていた。羽田空港から諸車乗り継ぎ、梅池駅よりロープウェイ、 Gondola ラフトと乗り継ぎ、夕刻には梅池ヒュッテにたどり着いた。



ハツカなどです。
さらには「潤性のあるもの」肺を潤す効果のある食材で代表なのが

「梨」です。他にもゴボウ・レンコン・銀杏・みかんなども肺を潤し、乾いた咳が出る時にも良く効きます。

これらに相性のいい食材として、はちみつ・なつめ・ごま・白きくらげが挙げられます。潤いを与える食材は、肌にも効果がありますので、普段の食事にも努めて摂るといいでしょう。ぜひ意識してみてください。

秋は「自然之道、養自然之身」といつて、自然のままに養生できるいい季節です。夏の疲れを回復し、これから迎える寒い冬に備えるための大事な季節です。また、収穫の時期でもある秋は、人間にとっても「収め



【うらかわ・はるか／人吉市「さんぽカフェオーナー」】

ていく」季節であります。夏の間に盛り上がった陽の気を、日が沈むのが早くなるにつれ、穏やかに収めていけたらいいかと思っています。冬まであと少し。無病息災で今年の後半を乗り切りましょう。



空気が爽やかに涼み、過ごしやすい季節になりました。
高温多湿の夏が終わり、どんどん「乾燥」の季節へと移っていきます。

実りの多い秋は旬の食材も豊富ですが、油断すると乾燥からくる未病に悩まされることになります。美味しい養生食で身体に潤いを与えましょう。

気持ちのよい秋でも、油断は禁物。中医学（中国漢方）の基本「五行学説」から考えていきますと、秋は「燥」の季節に当たり、「燥邪」の影響を受けやすくなります。燥邪の影響を最も受けやすい臓器は「肺」「腸」「皮膚」です。

「肺」は呼吸機能だけでなく、水分代謝を調節する機能、体温調節機能も司っています。これらの機能は、肺が十分潤っている状態を保つのが良いとされています。しかし、夏バテで栄養が十分に摂れていな

かったり、ストレスが溜まっていたりすると、身体の免疫力が低下し、肺の機能は落ちます。そこからさまざまな不調が現れてきます。

肺が燥邪の影響を受けると、のどや鼻の乾燥、乾いた咳、粘りのある痰、のどの渴き、気管支の炎症から、皮膚の乾燥やかゆみ、さらには腸の乾燥も引き起こし、便秘しやすくなったりします。

このような症状を感じたら、身体が燥邪の影響を受けているサインです。潤いを補い、できるだけ自然の力で改善できたらいいなと思います。

そこで、五行学説からのお勧めの食材が辛味。「辛散燥邪」といつて、辛味成分が燥邪を発散してくれま

湯前まんが美術館 (那須良輔記念館) 設立の頃 ②

溝下昌美



杉浦幸雄先生 横山隆一先生（鎌倉市にて）

鱗に触れることもあった。奥様のばばちゃんはなんと、東京麻布の相良邸におられた方で、綱様（相良頼綱）のことなどもすでにご存知だったのである。

平成元年頃、行政の首長部局で「文化行政」ということが始まったばかりであった。この仕事を始めた頃、「美術館準備室」とか、できるのかと思ったが、そんな、気の利いたものではできなかった。しかし、勝手に自分の名刺は「美術館準備室」であった。那須奥様との交渉で、作品は購入もし、寄贈もしていただくということになった。

また、館について、豊永町長は美術館単独での意向だったが、中央公民館が老朽化していたので、一緒に建設するという事になった。私は、建設の方でなく、那須先生の絵の整理や業績調査のほうになった。また、開館後の館の運営のことを考えていた。

一時、那須先生の業績調査に夢中

そういえば那須先生も戦前、綱様の集まりに出席されたこともあったそうだ。

横山先生は、酒が強く、酔われなかった。ある人から、「横山先生は翌日も何でも覚えておられるから」と聞いた時は、これは自分が酔っぱらうわけにはいかないと考えた。

先生からは、「那須は小林（秀雄）さんから薫陶を得た」とか、「手塚（治虫）は…」とか話が出た。

北御門先生は、町でのイベントで招待したが、「こんなことははじめてですか？」と聞いたら、泣いてしまわれた。

私にはしきりに「漱石」を読めと言われた。美代夫人からは、北御門先生のノート書きの原稿を原稿用紙に浄書したと聞いた。

になってしまった。上京して、文芸春秋や毎日新聞、東洋経済社に行き、掲載誌（紙）等の調査をした。

だれかの助言で那須先生の追悼文の募集をしたり、美術館ができる時には作品の図録くらい必要だと思いい、作品のポジの準備をしたり、那須先生を紹介するビデオの企画を考えたりしていた。

そのビデオにはだれに出てもらったのか、それは奥様、先生の先輩格の横山隆一先生、湯前の竹馬の友、北御門二郎先生である。ある人からそういう人に会えて、「役得ですね」と言われたが、そういう言葉も知らなかった。

むろん、那須先生のこととは鎌倉の美代夫人、奥様にお聞きすることが多かった。非常に快活な方で、逆

しかし、今思うと、私も若く純粹だった気もする。町は当時、那須先生の調査とか資料収集はそう、重要なことではないと考えていたのではないかと、今、気づいている。那須先生の蔵書を頂いたときも、輸送にお金を掛けてしまった。

数千点の絵の整理の方も大変だった。役場には絵にくわしい人はだれもない。以前から熊本県立美術館の学芸員には指導を頂いていたが、これからは近現代美術担当の学芸員のF先生に指導を得るようになった。さいわい、那須先生のこともご存知であった。「那須先生は怖かった」という評判。

絵の分類に悩み、ときには中学校の美術の先生をひっぱりだしたりして、洋画？ 日本画？ 新聞の原

今月の秀句

Selected Haiku of this Month

永田満徳選評・向瀬美音訳

<https://www.facebook.com/groups/1805562046390300/>

このコーナーは、「二行書きによる〈切れ〉と〈取り合わせ〉を取り入れた Haiku」を提案している『俳句大学』facebook ページからの転載です。

Nuky Kristijno

●
the moon in the lake
a still fishing rod waiting for the fish

【Commented by Mitsunori Nagata】

The lake lit by the moon, fishing pole is hanging. Without big game, watching the lake makes us happy and gives us the richness of the mind.

ナッキー

●
湖の月
釣竿はまだ待っている

【永田満徳評】

月光に照らされた湖。釣竿は糸を垂れたまま、釣果がなくても、湖面を眺めているだけで豊かな心持ちになっているのである。

Mohammed Benfare

●
coucher Atlantique
Les yeux flielrent avec derniers rayons

【Commented by Mitsunori NAGATA】

We see a big sun and the sunset all over the sky on the ocean. Being reluctant to part from the breathtaking sunset, it is well written 「flielrent」

モハメッド B

●
大西洋の日没
目は最後の夕日と付き合う

【永田満徳評】

大海原に沈む大きな太陽と空一杯の夕焼けが目に見え、息をのむほどの「日没」を惜しんで、「付き合う」と表現したところがいい。

Brendon

●
slow afternoon
the gentle hum of a worker bee

【Commented by Mitsunori NAGATA】

In the relaxing afternoon, even the subtle buzz of worker bee is making spring warm weather. This haiku describes the calm and peaceful atmosphere of spring.

ブレンドン

●
ゆっくりした午後
働き蜂のブンブン言う音

【永田満徳評】

ゆったりとした午後の一時。「働き蜂」の羽音さえも、春の陽気を誘うものでしかない。春の騒々たる雰囲気をよく描いている。

【ながた・みつのり／俳人協会会員、熊本市】

【8月号の訂正】①の作者名は lirou リルではなく、Starry スターリーに訂正。③の句の ombre l'accapagne の l'accapagne は l'accompagne に、また鑑賞の on voit la sensibilité の on は On に訂正。



北御門二郎先生と筆者

画？ 油絵？ 水墨淡彩？ リトグラフ？ などと、いつも悩んでいた気がする。

また、美術館は県のアートポリス事業に参画したが、建物は木造でという感じだったので、四国に木

造の美術館ができたと思う。あつたので、正月休みはそこに行つた。なに、これは文化庁の先生からの情報だった。そうそう、たしか、そのころ、城泉寺の防災設備工事をしたのであつた。そこは愛媛県の「久万美術館」というところだった。当地に似ている、山間の奥深いところであつた。こんもりとした、森の中に瀟洒な美術館が姿を現した。正月出勤の職員さん達に、親切にしていただ

た。そこでも絵の分類を教えてもらつたりした。なんと、そこには元美術の先生がおられたのだ。そこからどこへ行つたのか、近くの内子の街並を訪れたのだろうか、おぼえていない。

公費出張も多かったが、美術館も行政であるので、当然、条例が必要である。資料収集のため、県内の出張を申し出ると、「それは電話して資料を送ってもらつたら」と上司から言われたこともあつた。また、特に、館の設計士さんと展示室のことで、鎌倉に私一人出向くこともあつたが、中々許しが出ず、すっかりこまつたこともあつた。

【みぞしたまさみ／地域史研究家、球磨郡湯前町】

くまがわすじの考古地誌

(12)

球磨川筋の弥生時代^⑫

木崎康弘

(NO.173)

「免田式」と呼ばれた土器の発見

それは、一九八四（昭五九）年二月一日のことだった。『週刊ひとよし』で連載していた「球磨の考古地誌」の三七 免田式バ使うてくさい（文献①）で書いた、ある事件が起きたのだった。そこは、肥後考古学会と鹿児島県考古学会の連合学会の会場となった人吉市のカルチャーパレス研修ホール。「皆さん、免田式という名前バ使うてくさい」との、高田素次の声とそのホール内に響いた。

「様式名としては成り立たない」、「重弧文長頸壺だ」などなど。

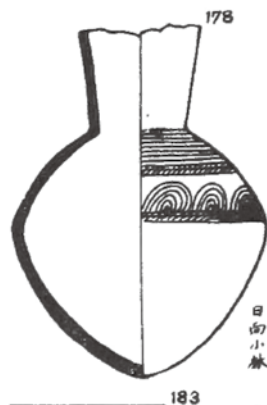
さまざまな議論が噴出。乙益重隆が

「およそわが国の弥生式土器には全国にわたって、約一六〇種にのぼる様式名が設定されている。中でも、歴とした独立町村名を付した土器様式は、免田式土器だけ」（文献③）と述べた意味も深い。自分が学界・学会デビューを果たし（文献②）、五〇年近く付き合ってきた土器について、思わぬ議論の数々。そんな内容にいたたまれなかつた高田の気持ちは、痛いほど分かった。

そんな土器なのだが、その発見は、百年の昔を優に遡るほどに古い。先ず、最初に描かれた実測図（図①）は、



写真① 「日向の小林から出た土器」



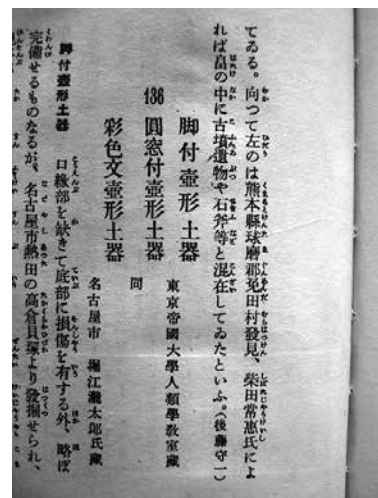
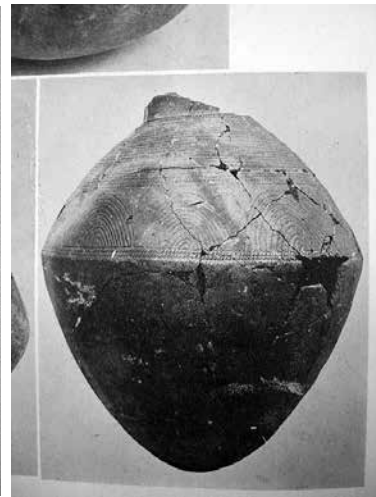
図① 「日向小林」の土器

一九一九（大正八）年に発行された『京都帝国大学文学部考古学研究報告 第三冊 九州に於ける装飾ある古墳』の巻末に所収された、「弥生式土器形式分類図録」（文献④）に掲載された、「日向小林」と添えられたものだろう。次に、写真は、「日向の小林から出た土器」（写真①）として、國學院大學博物館に所蔵されている「柴田常恵写真資料」の中に収められているものだろう。また、記述としては、『九州日日新聞』一九一六（大正五）年七月二日付けで報じられた、東京帝国大学理科大学（現・東京大学理学部）助手の柴田常恵の講演内容の記事が古い。そこには、「今度球磨から発掘された土器が弥生式で嘗て日向の小林から出た土器と同一であるのを見て」（文献⑤）とあった。つまり、その発見は、一九一六（大正五）年を

起点に、「嘗て日向の小林から出た土器」と記されていたように、明治期若しくは大正初期であったことは間違いないだろう。

一方、熊本県内での発見事例も古い。それは、一九一六（大正五）年の六月の終わるか七月の初めのことだったようだ。柴田は、開墾作業が行われていた免田村（現・あさぎり町免田）の本目での踏査していた。すると、そこで完全な形に近い姿の土器が掘り出されていた。柴田は、それを現地で直接譲り受けたというのだ。これが『九州日日新聞』一九一六（大正五）年七月二日付けの記事中にあった「今度球磨から発掘された土器」（文献⑤）のことである。その後、その土器は、東京帝国大学理科大学の所蔵品に収まった。これが、『世界美術全集』（文献⑥）に掲載された「東京帝国

大学人類学教室蔵」の重弧文土器（写真②）である。東京帝室博物館（現・



写真②「東京帝国大学人類学教室蔵」の重弧文土器と解説文

東京国立博物館」の後藤守一の筆になる解説には、「熊本県球磨郡免田村発見、柴田常恵氏によれば島の中に古墳遺物や石斧等と混在してゐたといふ」（文献⑥）とあった。

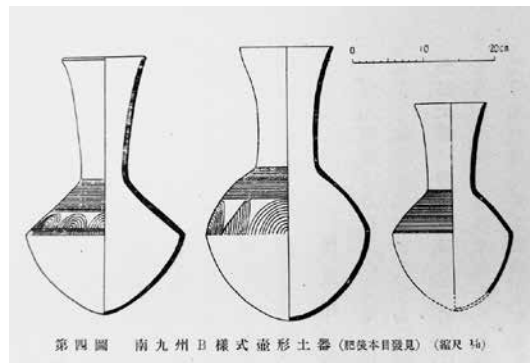
このように、特に大正期の初期から柴田や濱田耕作らによつて注目され始めた重弧文土器だったが、それを考古学的に評価したのが、小林行雄であり、小林久雄、坂本經堯であり、高田、乙益だった。当時、小林（行）は、神戸高等工業学校（現・神戸大学工学部）の学生だったのだが、その傍ら、東京考古学会に所属して、森本の片腕として弥生式土器研究に励んでいた、新進気鋭の考古学者。また、小

林（久）と坂本は、一九三〇（昭和五）年の肥後考古学会の設立に参画し、本格的に考古学研究に着手し始めたばかりの考古学者。さらに、高田は、地元球磨の考古学者で、乙益は、球磨出身の國學院大學の学生。

小林（久）は、一九三二（昭和七）年、「肥後国下益城郡隈庄町出土の弥生式土器」（文献⑦）という論文を書いた。そして、それに引き続いて、坂本と小林（行）は、連名で「九州弥生式土器の様式」（文献⑧）を書いた。この二つの論文によつて、熊本の特徴的な弥生式土器が広く学界に知られるようになったのだった。その後、高田と乙益は、一九三七年に「肥後国免田町本目遺跡出土の弥生式土器」（文献⑨）と題する論文を公にした。

斯くして、熊本で多く見つかつてい

た特殊な弥生式土器は、学界での一定の評価が定まることとなった。そして、



図②『弥生式土器聚成図録』の重弧文土器

小林が『弥生式土器聚成図録』の九州のB様式の脚注に書いた「この様式の土器の特に発達してゐる肥後国球磨郡免田地方にちなんで免田式の名称を用ひたい（略）」（写真③、文献⑩）との一文によつて「免田式」との呼称が登場することになったのだった。（つづく）

文献①木崎康弘「球磨の考古地誌三七 免田式バ使用てくたさい」（『週刊ひとよし』七二五、二〇一二年）

文献②木崎康弘「球磨の考古地誌一五高田素次の学界・学会デビュー」（『週刊ひとよし』七〇三、二〇一二年）

文献③乙益重隆「免田式土器名付けの由来」（『郷土』創刊号、一九七三年）

文献④濱田耕作・島田貞彦・梅原末治

写真③解説文

「弥生式土器形式分類図録」（『京都帝国大学文学部考古学研究報告 第三冊 九州に於ける装飾ある古墳』、一九一九年）
文献⑤九州日日新聞社「石器時代と人種について」（『九州日日新聞』七月一日記事、一九一六年）
文献⑥後藤守一「一三五 弥生式土器」（『世界美術全集』四、平凡社、一九三〇年）
文献⑦小林久雄「肥後国下益城郡隈庄町出土の弥生式土器」（『考古学』三一、一九三二年）
文献⑧坂本經堯・小林行雄「九州弥生式土器の様式」（『考古学』三二、一九三二年）
文献⑨高田素次・乙益重隆「肥後国免田町本目遺跡出土の弥生式土器」（『考古学』八一、一九三七年）
文献⑩森本六爾・小林行雄編『弥生式土器聚成図録』（東京考古学会、一九三九年）

爺どんたちの嘆き

前田 一洋



第一話 キャットフード

「おろう珍しゅう逢うたな、どぎやしとつたと。病院でも一つちよだり見掛けんじやつたで、ひよくとすれば寝倒えてどもおつとじゃなかつどで、しんぴやしとつたとはい」

「おまいこそソクシャかったな。なんさま足のホヨしなつたもんじやつで、病院にだり行くかみやはなかつたとたい。ごたぎやに、年取れば良か事ア一つちよだりなかもん」

「さいばたい、目は霞む耳や遠おしなる、ちゅうたふやでドクな事アな。か。そいどん、おなごまソクシャな

もんばい。きにゅうはカラオケ、きゅうはフラダンスちゅうたふやで、晩飯もおいが一人つで食わんばんとよ」

「おいぎやへんも一つもん。くんやは詩吟の稽古じやつで、おまや湯かけラーメンども食てうつちよきやいげな。こないだどま、缶ビールと缶詰の飯台に載つとるもんじやつで、珍しい事もあるもんたいて思うかたで、その缶詰よば食た後で、一ちよだり味のせんじやつたがて思うて、レッテルよばしんから見てみたいば、キャットフードちゅうて書アてあつたとじやらよ。おいも、とうとうネコ並みしなつ

たとじやら、ぬすこつじやなか」

「ドッグフードやらキャットフードどもないば、よつぽだようち。どろころすれば、猫イラズどもが出てくるかもしれんとい」

「ないば、人間の食いもんば出やてくつやるアネさんの店で、一ぴややつてみゅうか」

「もうえろつは飲みやえんども、ふさしかぶつじやつでなア。チカツとやつてみゅう」

話によれば養老院への門戸も次第に狭くなつてきているとか。何しろ終戦直後から生まれ始めた団塊の世代は、ガキの時代から青壮年期そして粗大ゴミ期に至るまで、それこそ競争から競争の世中であつた。かくて終の住みかの極楽浄土までもが、うつかりすると満員札止め。「敬遠老

の日」もやがて来る。

第二話 祭つみやつ

「おくんちの来たつちや、もうどつからだり祭つみやりイ来やいちゅうてくれやつとこいも、なかめしなつたなア。こようちにや、町のあつちこつちから、寄つて行きな、飲うで行きやいちゅうて、トトしやん達やきさんな事じやつたいどん。そして、よか気色で中川原さみや行たて、おどめサカスよば見せたり、武徳殿で銃剣術みせたりしてはい」

「町じや、おいどん達がごたるこめんか子供えも、ちゃんとお膳してくれてばい。まいきやにや鯛の尾頭付きまで、出やてくれおんないたでな。おいぎやは札ん辻の呉服屋と遠縁じやつたで、おくんちにや毎年よばれて」

「そして二軒や二軒じやなかつたでなア、トトしやんの連れて寄つやつとこや。おどま早うお旅所に行こつたて、親の守りもヤヲいかんじやつたでな。そいどん、珍しかご馳走食わせてもろたり、高つかみやげば貰うたりして、ほんとんよか祭つみやりじやつた」

秋は祭りの集中期、町は町なりに青井さんのおくんちや、多良木町のエべつさんなど。サイはザイで大小様々の神様が、普段は堅く閉ざした扉をひらき、「おお今年の稲も、ゆうでけたにや」とお褒めの言葉を下さる。

そこで家々でもご馳走を拵え、かねてお世話になつてゐる人や親類などを招き、それこそ飲ませ食わせのううばん（碗飯）振舞ア。主体は勿論大人であるが、長男や長女はそれに準ず

る客として接待を受けるのであつた。

○

それでは、一話と二話の球磨方言クイズ。

一つちよだり ①全く②球磨拳

ソクシャカ ①早足歩き②健康

ホヨしなる ①丈夫になる②弱くなる

かみや ①心構え②お土産

ドクな ①毒まんじゅう②碌でもない

ふやで ①調子で②ふやける
しんから ①人念に②新しく

えろつ ①頭の下がる②たくさん

こようちや ①かつては②いじめっ子

きさんな ①天手古舞の②貴様は

ヤヲいかん ①容易な②困難

【まえだ・かずひろ／人吉市】

残照「川辺川」——そして

人吉海軍航空基地」

① 富永 和信

プロローグ

昭和九年（一九三四）生まれの私達は不思議にも学校制度改変の節目節目に合致して育った。昭和十六年（一九四一）の国民学校令（従来の尋常小学校廃止）による新しい国民学校に新入学。同年十二月には第二次世界大戦勃発という激動の船出である。

国民学校五年（一九四五）八月に終戦。同二十二年三月発効の新しい「学校教育法」による新制「川村中学校」入学、昭和二十五年（一九五〇）新制「県立人吉高校」入学、同二十八年卒業、そして新制大学に入学。まるで戦中戦後の教育制度の大転換、大改革の「申し子の如く」である。

戦中の勉強どころではなかった時代ではあったが、国民学校四、五年生にもなると旧制中学校入学試験が気になってくる頃であ

かに乱暴な男の子でも一人で行くことは出来ず不文律の禁泳区域であった。

私達方キ連にとつては怖いけど、どうしても行きたい場所であったので頼りになる上級生についていった。川底の巨岩の下に潜るとそこはダークコバルトブルーの身震いする沈黙の世界で鮎やイダ（ウグイ）などが棲みついていた。信じてはいなかったが河童が出てこないかと本気で心配した。

戦前の低学年の時は専ら川下の三角石のトギ石中心に飛び込み泳ぎで遊んだ。

これは七十年前の川辺川柳瀬橋周辺の情景であるが近年、時折に帰郷して実家から川を眺めてその変貌に驚き、溜息が出る。その昔、泳ぎ遊んだ所に水は無く川底が無残にもむき出しになっているではないか。

かような現象を単純にうけとめるとすれば確かに「故郷は遠くにありて思うもの」かもしれない。これは球磨川、川辺川だけの話ではなく日本国中、いや世界中の河川が悲鳴をあげている。地球温暖化そして異常気象、さらに流域森林や水田の保水力の低下が原因とされているが、人類が享受した文化文明の恩恵の代償であるとするならば空しい限りと思わざるをえない。

昔日の河川の流れの復元が不可とするならば、人類は一刻も早

る。上級生の「誰れそれが『人中』に落ちたばい」という話が広がって、家中の、とりわけおふろが「あんたが落ちたら恥ずかしかな」と心配していた。

そんな周囲の心配もどこ吹く風で川辺川を我が領域として河童顔負けの活動？をしていた。「人中」入試も「なんとかなるじやろう」であつたが内、心自信など有る筈も無く心配であつた。

しかし、終戦になつて学制改変（六・三・三、四制の導入）によつて中学校まで義務教育となり、無試験で中学校まで入学できることになり、万々歳であつた。正直言つて深く考えることもなく天にも昇る心地だつた。

私と「川辺川」

球磨川の支流「川辺川」は本流に劣らないすばらしい川であつた。私の少年期の心身共に鍛え育んでくれた何物にも代えがたい鍛錬の教場であつた。したがつて高齢の今もつてそれは心象幻影として少しも消えていない。

私達の川遊びのフィールドは柳瀬橋上流三百メートル程の「イダマ淵」と橋の川下三百メートルの三角大石「トギ石」の間の兩岸にある数ヶ所が遊泳の拠点である。

上流イダマ淵は底が見えないほど深く流れが渦巻いており、い

く全地球の天から頂く貴重な水を全知全能の努力をして昔日の河川に近づける責任があるのではないだろうか。

儚なき追憶「海軍航空基地」

小学（国民）二年の時、木上村と川村柳瀬の間に広がる高原と千敷原に予科練の海軍航空基地を造る話が出たと同時に基地建設工事が始まった。

その頃の私達の行動は、いつも同級生三人と二級下の二人の五人組であつた。私達軍国少年は航空基地が柳瀬三石集落のすぐ近くに出来て、憧れの軍用機が飛び交うと思うと単純に喜び、いささか興奮していた。ただ子供心に海軍がこんな山の中にくるのは秘密基地じやろうかと話していた。

滑走路の出来る千敷原周辺は萱（カヤ）や小さな野笹群生の原つぽで「ヒバリ」「ホオジロ」など小鳥捕獲の絶好の場所、さらに紅色の苜蓿などの採れる山の幸の宝庫であつた。当然立ち入り禁止になつていたが、こっそり侵入してバードハンティングをして、その折に建設中の滑走路を盗み見た。柳瀬（三石と井沢集落）側と木上村の由留木にまたがるような、長くて幅の広い一直線の巨大なコンクリートの滑走路が、生まれて初めてお目見えして度肝を抜かれた。その夜、家族に自慢げに報告したが、当然な

がら親爺にひどく叱られた。その親爺にもすぐに赤紙がきて出征（内地配属）して行った。

私達が直接目にした建設現場は県道の新設工事であった。従来の人吉と木上村や上球磨を結ぶ道路は柳瀬橋を過ぎて右手、つまり三石集落千敷原を経由していた。この道路は滑走路の邪魔になるので、その代替路として柳瀬橋から左手吉野の方面をつなぐ細い道を主要道に大々的に建設する（現在の県道三十三号線）突貫工事であった。つまり非常事態の軍、すなわち国の事業であったので、当時としては珍しいトラクターや建設機械が稼働しているのを私達は遠巻きにして、毎日見学していた。しかしなんといっても主力は人力による鶴嘴、スコップやモッコ、そして手押し車のトロツコであった。働き手は遠近からの作業員、学徒動員、近所の奉仕団、朝鮮国人など。様々な服装の大勢の人が汗を流しながら海軍士官服と現場監督に怒鳴られていた。

私達ガキ連は作業員のいない夕刻現場に忍び込み、トロツコを上手の方に数十メートル押し上げて、下りに向けて恐る恐る出発進行。なんとも言えない爽快な一刻であった。もちろん運悪く巡回中の現場監督に見つかって大目玉を喰ったこともあったが、今は懐かしい追憶の想い出である。

この新道建設中のことで忘れえぬ出来事があった。突貫工事の

荒々しい作業のため、道路と川辺川の間の斜面地にあった細長い畑に土砂が流れ込み、野菜の一部が被害を受けた。この畑の作主は本誌16号の「望郷の念忘じ難く候」で紹介した私の近所で、同級生の平川倫子ちゃん（現在アメリカ・ロス在住）のお母さん。彼女の一家は昭和十七年頃、混乱を避けて三石集落の彼女の父上の実家に引き上げてきたのであった。それまでまるで農作業など経験したことのない人がやつとの思いで丹精こめて作った野菜であった。一家の主は現役の陸軍大尉憲兵隊長（中支方面赴任中と思う）で、在所の村人が気安くものを言える人ではなかった。その憲兵隊長さんが丁度その時、たまたま帰省されていたので面倒なことになった。軍服（将校）姿の隊長が土砂を被った畑を見て廻つてから、海軍将校と現場監督を叱責するという一大珍事があった。当時、軍の仕事に口出しすることは考えられない時代であったので、私達いつものガキ連は如何なることになるのかと固唾をのんで見守った。したがって私達は基地建設途上にまつわる小さな事件の遠巻きの証人ということになったのである。その日を境に我々子供心にも「憲兵隊長はとんでもなく偉く怖か人ばい」となり、今までのごと「倫子をいじめて泣かせたらいかんばい」となったのである。（㊦につづく）

【とみなが・かずのぶ／山口市】

鵲^{せき}鴿^い短歌会

八月詠草

八月忌あの日の空も青かったまだ傷癒えぬ原爆の罪
くちなしに例えて近況書き始め文の終りは薔薇で寄せたり

守永 和久

じわじわと戦火の臭い近づきぬ湛山翁の再来望む
今年こそ日曜日には酒を断つ心に決めてお茶飲み干しぬ

河内 徹夫

夫と行く無難な八十路の旅願ふ藪の小道も大海原も
「防空壕」「日の丸弁当」「空襲」と夫と語るは終戦記念日

中村美喜子

北の旅連絡船の銅鑼の音未踏の世界に夢を奔らせ
若き日に昭和新山滑り坂手を支えてと妙齢の女

西 武喜

診察日身じたく整え待つ夫異状はないと笑顔で話す
久し振り友と出掛けた絵画展お茶と話で時間を忘れ

釜田 操

薫風を受けて泳ぐや鯉のぼりあたかも生きて泳ぐ如くに
天邪鬼とこかで聞いたその言葉まことか己を指して云うのか

緒方 保正

「年とれば分かる」と話した母の意味今しみじみと感じてをりぬ
木陰にてラジオと共に一休み夏でなければ出来ぬこととして

中原 康子

亡き父が嫁ぐその日にくれた文 銭^{はなげ}の事涙して読む
里帰り池のほとりに佇みぬ父の好みし魚を見つつ

三原 光代

草花は老いゆく我に比ぶれば勢い増して朝露まで乗せ
山の端に掛かる三日月背に負いて登る市房夜明け間近に

橋詰 了一

飼い主と飼われる犬と二人だけ共に午睡を静かに過ごす
病む妻の苦しみ治す医はなきや介護をしつつ切に思へる

堀田 英雄

「第4回西本願寺医師の会」に出席して

瀬戸致行

私は男三人兄弟で一人だけ幼少の頃から病弱で、珍しい物を食べると自家中毒？になり「ひまし油」なる下剤を飲ませられたり、胸に「辛子湿布」を貼られたり。果物もリンゴやミカンで、柿やビワは不消化だと言って食べさせて貰えず、小学二年まで発熱すると熱性痙攣を起こしていた。結局、小学3年時に一年休学した。大学受験時は父親が「お前には病氣ばかりして金が掛かったから、医者になつて金を取り返せ(?)」と言って医学部受験を勧めた。しかし、大学に入つても寒い冬には肺炎にな

り、錆色の痰が出る始末。「もう自分は長生きしない」と不安になり、信心篤い母に勧められ、浄土真宗の門徒となった。

前置きが長くなつたが、人吉別院で聞法をする内に、医師の会への入会を勧められた。西本願寺医師の会は「生死を超えた仏教的視点で医療の現場と向き合い、学び、課題を共有しあう場」として設立され、165名を超える医師が入会している。この度(七月二十三日)は会員の交流と「仏教と医療の協働」についての学

びの場として「東京の築地本願寺蓮華殿」において開催された。あそかビーハラ病院顧問の高宮有介氏は新刊書『お坊さんのいる病院』に、「死に至る病氣(主にがん)の患者さんの心と身体の痛みを和らげるケアがホスピス・緩和ケアです。患者さんだけでなく、ご家族もケアの対象です」。「患者さんの痛みは、全人的な痛みといわれ、四つの痛みが有ります。身体的、精神的、社会的、宗教上の痛みがあり、ホスピス・緩和ケアでは、身体的な痛みのみならず、精神的な痛みも和らげます」。「緩和ケアを受ける入院施設として、緩和ケア病棟があり、キリスト教系の病院はホスピス、仏教が基にある病院ではビーハラと呼ばれています」。

今回の第4回西本願寺医師の会はその場に満たされることや、社会的な地位を高めることに、自分の人生に価値を見出そうとします」と述べた。その後、月江教昭医師を座長にパネルディスカッションが開かれ、午後四時から席を移して「瑞鳳」にて交流会があり、乾杯のあと意見交換があり、連れの妻とご馳走を堪能した。私は初めてだったが、六十二名が出席し、熊本県の医師の会員8人中4人が参加していた。翌朝、ご本堂のご内陣にお参りして、「本願寺煎餅」をご同法へのお土産として買った。

今後、私に残された人生は僅かだが、医師の会の一員として少しでもお役に立ちたいと思います。

【せと・ちこう／人吉高校五回生】



東京・築地本願寺にて

先ず東北大学特命教授の鈴木岩弓氏が「死後世界と宗教／臨床宗教師の誕生と展開」と題して、東日本大震災を契機に、宗教者が公共にて宗教的ケアを行うことをバックアップし、東北大学文学研究科内に「実践宗教学寄付講座」を設置し「臨床宗

教師」の誕生を目指している。

次いで、活動報告①として三菱京都病院院長の小野晋司氏は「一般急性期病院におけるビーハラ僧／現状と展開」と題して講話。2002年に緩和ケアの勉強会を始め、2008年には緩和ケア内科、病棟発足と共にビーハラ僧に全人的痛みの緩和に当たってもらう。活動報告②では、あそかビーハラ病院ビーハラ室長の花岡尚樹氏が、「生と死のかけ橋に／医療現場で僧侶が大切にしていること」と題して、「人は老病死という人生の危機に直面したとき、自分が生まれてきた意味や死んでいくことの意味を問います。元気なときには経済

活動報告②では、あそかビーハラ病院ビーハラ室長の花岡尚樹氏が、「生と死のかけ橋に／医療現場で僧侶が大切にしていること」と題して、「人は老病死という人生の危機に直面したとき、自分が生まれてきた意味や死んでいくことの意味を問います。元気なときには経済

おっとわっとあすび その⑦

絵と文／松舟博満

イデんみぞぼし

春さきい皆で美しゅうさらえや
いた溝ん草ん茂つて、流るる水
も見えんめえひなれば、また皆で
草払いばしおつやつたで、そんな
きにやイデん水は落てえてしも
うて、しおらいたで、まちなぎやこ
で、大人ん師に「いつ溝ぼしす
となあ」て聞けば「こんどん日曜
日にさつげなあ」て言われるれば、
はようから、茶摘デゴば用意した
して、子どももうごつじやつた。
大人ん師やまだ水んあつじゅか
ら草ば払うて、溝んなぎや切こ
きやて、水ん浮こうでよしまつた
とば、溝ん外さみやかつとしゅう、
うしててさかいた。

さらえらいたあとにや水は、だ
け太かとからかつとしゅう捕まえ
て、行きおれば中にやウナギもおつ
たで、「たかたか指（中指）では
すめばよか」ちゅうもんで、ヌルッ



んだん減つて、しまいにやどこそ
けえ水ん溜まつとたで、そけにや
逃げむかささんじやつたイヲのずびや
で、オヨオヨしとつたで、なつた

ヌルッやつてぬめつて掴みやなん
じやつたで、「どうせじゅつときにや
うつ死んどじつで」ともうて、石で
ビンタばびつしやぎおつた。

あつ時いなま太かウナギば見つ
け、どぎややつたつちや捕まえがな
んじやつたで、ウナギん頭ん噛み
ちいて取つたこんのあつとたあつた
いどん、その後、齒の間んヌルヌ
ルしとつとん挟まつて、いつまつで
ん気色ん悪かつた。

いつぱん太かとは取つてしも
うて、後よんのつて見れば、ガタン
なきやくじつとつたウナギん水ん
なかめえひなつたもんで、二ヨロニヨ
口やつて出てきおつたで、ウナギ
ば取つてにや後からいたほうが、
良かった。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇
神社・文化苑「童遊館」】

今月の詩 ⑱

人吉球磨児童生徒文詩集「やまぎり」から

第35号（2009年3月発行） 選・作文の会

わたしもいれて

おとうさんは、
しょうちゅうが大すき
ビールも大好き
おいしいのかな
ばんごはんのときに
おかあさんとのむよ
二人でのむよ
いいなあ
でもわたしは
ジュースのほうが
おいしいと思うけど
ごくん、ごくん、ごくん、
ごくん、ごくん、ごくん、

東間小二年 長船あんな

「ああ、うまかあ」
ごくん、ごくん、
そんなにのんでいいのかな
でも
二人とも楽しそう、
にこにこえがおで
いい気分
わたしも
なかまにはいりたいたいな
いつか三人で
のみたいね
【評】あたたかい夕御飯時の家族の様子が目に浮
かぶ。題名と最後の一文が響きあっていて読後感
さわやか。

倉敷便り

⑨

原田 正史

人吉海軍航空隊 兵士たちのこと

海軍兵士の階級は、下の方から二等水兵、一等水兵、上等水兵、水兵長、二等兵曹、一等兵曹、上等兵曹だったと記憶しています。上等兵曹の上が兵曹長なのですが、兵曹長は準士官であり、士官待遇でした。したがって兵士の最上位にある上等兵曹が兵士たちの間で最も羽振りを利かせていたのです。

無事故で過ごした者には精勤賞が与えられ、その徴として、左袖上部に山形マークを付けることが許

されるのです。上等兵曹の中で一人だけ山形マークを三つも付けた人がいました。この人には公用ではなく、個人用の自転車を与えられており、肩を揺すりながら自転車を右へ左へと蛇行させ、広い飛行場を気持ちよさそうに走り回っていました。

兵曹長は、若くして海軍に将来の夢を託し、苦労を重ねながら昇進を続けてきた人ですから、数も少なく、海軍の一切について精通した人であつて、兵士たちから見れば、神様のような存在だったのです。人吉海軍航空隊に兵曹長がいたかどうか、私たち動員生徒からすれば

全く関わりのない人ですから知る由もありませんでした。

私の親戚にも兵曹長まで栄進した者が佐世保海兵団にいました。顔の左右に伸びた真つ黒な口髭が自慢であり、「髭の兵曹長」と呼ばれ、海兵団では彼を知らぬ者は一人もいなかったそうです。もともと軍港は軍艦の停泊場所ですから、許可なしでは立ち入れません。それだけに魚にとつては最も安全な場所であり、軍港は無数の魚であふれていたそうです。これに目を付けた彼は、月の出ない夜に港で魚を釣り、大量の魚をとつたそうです。途中、二人組の衛兵がやつて来て、「何をしているか貴様は」と、懐中電灯を向けたそうですが、口髭を見て「あつ、髭の兵曹長殿でしたか。申し訳あり

ませんでした」と何か自分たちが悪いことでもしたかのように立ち去ったとのことでした。衛兵にしてみれば、自分たちと同じような道をたどり、兵士としての最高の位置に達した憧れの人であると同時に、自分たちの心情も理解してくれる同じ仲間だという意識もあつたものと思われま

兵曹長から更に昇進して、少尉中尉になることは可能でした。ただし、このような人には特務という名称がつきました。すなわち特務少尉、特務中尉です。陸軍にはこのようなものはなく、陸軍士官学校出身であつても二等兵から成り上がった人であつても同じ少尉、中尉でした。ただ年齢から判別できたのです。

兵士の中には訓練の激しさ、夜ごとのシゴキの厳しさからでしょうか、精神に異常をきたした者もいました。虚ろな目をした兵士は、誰が着せたのか制服・制帽を着用して飛行場内を歩き回り、対面したすべての人に直立不動の姿勢で敬礼を繰り返していました。一週間ほどで姿が消えましたが、どこに連れて行かれたのでしょうか。恐らく誰がそうさせたのかといった責任問題に関わることだけに帰されたのだらうと思います。兵士としての能力を失った人に対する軍隊の冷やかさを強く感じさせるものです。

ある日、砲術訓練が実施されることになり、日露戦争の時に使用されたのではないかと思われるほどの古ぼけた小型の大砲が、飛行場に

引き出されました。どこから運んで来たのか、赤錆だらけの大砲は、私たちが見ても実戦には役立ちそうにない代物でした。やがてどうにか弾丸が込められました。射手は明らかに召集兵と思われる小柄で年配の兵士でした。射手が引き金を引くと、弾丸は銃身の根元で爆発しました。爆発は小さなものでしたが、射手は鮮血に染まりながらその場にぐずれ落ちました。即死だったので。この光景を見ていた私たちの誰もが「これでも名誉の戦死なのか」と、思いました。

上等兵曹の中で私たちを可愛がってくれたのは、松本上等兵曹ともう一人の上等兵曹でした。その人の名前は、私たちに馴染みのない他地方の姓だったため、今ではどうしても

思い出すことが出来ません。仕方がないので〇〇上等兵曹としておきます。二人には私たちと同じ中学五年生の弟がいて、そのことが私たちを可愛がってくれた理由でした。二人とも年齢は二十代半ばを越えたころと見受けられたので、年の離れた弟だったと思われます。それだけに私たちの姿に可愛い弟を重ね合わせて、会うことの叶わぬ弟を偲んでいたに違いありません。特に松本上等兵曹の私たちを見る目付きは他人とは思えぬほどのものでした。



私たちはささいな事で、同じ年頃の若い水兵長や上等水兵らとよく喧嘩をしました。彼らは海軍軍人であることで威張るのです。その時、私たちが取り出す切り札は「この事を松本上等兵に話しても良いのか」という一言でした。これを聞いたどの水兵長や上等水兵曹らは途端に腰ぐだけとなり、すごすごと引き下がるのでした。

空襲のあった翌日、私たちの所に来た〇〇上等兵曹は暗い顔で、「君たち、松本は死んだぞ」と告げました。この言葉を聞いた私たち全員が眼を閉じて頭を垂れ、こみ上げてくる無念の思いに必死に耐えたのでした。

九十歳となった今日であっても松本上等兵曹のやさしい眼差しは、私の心から消えることはありません。

真夏のある日、中年の召集兵二十人ほどが水泳訓練を受けるために、指導係の若い水兵長と指導補助の同じく若い二名の上等水兵の前に並んでいました。いずれも真新しい^{ふんどし}褌姿でしたが、召集兵の尻を見た時、見物していた私たち全員は愕然としました。なんとその両方の太ももの中央部には、赤黒く変色した^{あざ}痣がありました。この痣は尻を棒で強く叩かれたために生じたのでしよう。

もともと海軍は艦上生活が中心ですから、尻を叩くのは海水に浸したロープでした。陸上では木製の

くまがわ春秋歌壇

いもこ短歌会

故郷の道は静かでも人もない帰省の若者スマホ離さず
吾が庭のピンクに咲いた百日紅盆の花にと添え墓参り

三原 竹二

朝寒にふと目をさましすぎ間風裏の竹やぶ秋がのぞいた
道ばたに乱れ咲きたるさるすべり風にゆられて人招くごと

坂本 ケイ

朝夕に水かけ育てし朝顔の花を数えて今日が始まる
孫が舞う「好きです日本」にみとれたりとはち娘の妖艶の舞い

上田 迪子

宿題のページの多きにため息の学童つ子らの夏も過ぎ行く
野の花も平和の誓い忘れなん白百合揺れる終戦記念日

宮川しのぶ

ぬっかねえ地獄んごたる持たんバイかわした会話数え切れない
猛暑日に蚊も参ったか姿なく裸で寝ても安心の夏

吉岡 弘晴

核兵器禁止条約採択を胸熱く聞く七夕の夜
被爆国は核廃絶に尽くすべし日野原さんの遺志受け継がん

上田 精一

棒が使用されますが、その形状は野球のバットをもっと短く太くしたものでした。根元には赤い房が付けれ、中央には「日本精神打之棒」という文字が黒く刻み込まれていました。こんな棒で日ごと夜ごと尻を叩かれるのですから下級の兵士たちは哀れでした。勿論、叩き役の水兵長や上等水兵の尻は無傷そのものでした。

このような哀れな初年兵たちの現実をまざまざと見せつけられた私たちは、「軍隊に入る時には、将校になつて入らないと大変だ」と話し合い、将校になるための道筋を模索し始めたのでした。

【はらだ・まさふみ／元人吉市文化
財保護委員、倉敷市】

文化の衰弱を憂慮し、警鐘を鳴らす

伊勢戸明『くま春秋』論

上村雄一

伊勢戸明著『くま春秋』（人吉中央出版社）は座右の書である。これまで、球磨人吉の事項を調べるときの事典として、功利的に利用することを通例にしていた。今回、改めて、その基礎部分に注目して本書を通読した。以下、その感想を並べる。

「週刊ひとよし」の創刊目的



伊勢戸 明 氏

20年前、井上龍生は「ふるさと人吉の疲弊と活力の無さは目にあまる。警鐘乱打すべきである。口は一切ださないから、新聞とは違う情報誌を発行すべきである」

と伊勢戸に強く勧めたという。井上は中曽根康弘につながる保守派の人物で、県議会議員を4期つとめたのち、中曽根康弘の派閥の一員として2度にわたり衆議院選挙に立候補した県南の有力者であった。その井上がどちらかといえばリベラル派の伊勢戸に新雑誌の創刊を勧め、伊勢戸はそれに応じている。経営面で新雑誌の創刊を心配をする慎重派もいたが、「好機至れり、やれやれ」と励ます声が強かった。井上龍生につながる人たちがかりでなく、リベラルの人たちもそのなかにいた。それぞれの意思・思惑が交差・衝突するするなか、20年前の9月9日に、伊勢戸は「週刊ひとよし」を創刊した。

20年前の人吉は、井上が述べるような状況にあったのだろうか。「週刊ひとよし」を現実に創刊しているのである



井上龍生氏

から、そう強く感じていた人たちが一定数いたことは確実である。しかし、客観的事情として、井上が指摘する事情が存在していたかは別

問題である。肯定する人もいれば否定する人もいるであろう。私はどうか。新雑誌の創刊を期待しつつも、その刊行には賛成しない「慎重派」であつたろう。慎重派は、つきつめていけば、人吉の文化状況に危機感をさほど抱いていない者たちである。

伊勢戸はそうでなかった。同時に、慎重派のいうことも伊勢戸は根拠があると感じていた。雑誌を創刊しても、それが商品として売れる保証はない。井上は、新聞とはちがう情報誌といったが、それだけで、その雑誌の方向性がでくるわけではない。井上と伊勢戸、あるいはその他の人々は、どのような戦略を描いていたのだろうか。「人吉文化」をモデル誌として伊勢戸は意識していたとされる。本人もそのように書いている。しかし、それだけであつたか。「週刊ひとよし」に掲載された記事を概観するときリベラル派の原稿が目立つが、それは井上の意思になつたものであつたろうか。伊勢戸のスタンスの反映であつたか。それとも偶然的結果であつたか。

「週刊ひとよし」創刊号
(1997年9月9日)



★表紙に注目したい。報道・評論・解説・文芸を掲載内容にしている。当然のようにみえるが、「報道」と明記している点は重要である。その報道は日刊紙の報道とは根本的にちがうものを伊勢戸は考えていたであろう。「企画編集」は伊勢戸でなく「人吉球磨総合研究会」の名前になっている。伊勢戸は同会を執筆者の供給源と考えていたようにも記している。実際には、どうであつたか。同研究会は現在も存続しているが、実質的には、休止状態にある。

はしか犬

石蔵正次と伊勢戸明の2人は「はしか犬」と呼ばれていた。辞書的にいえば、ところかまわず嘔みつく者を「はしか犬」という。人吉でもこういう言葉を使うのかと不

思議に思っていたら、使うらしい。

ところで石蔵と伊勢戸は、本当に「はしか犬」だったのだろうか。呼ばれていたとしても、辞書的な意味で、そうよばれていたのだろうか。それともニュアンスを異にする意味で呼ばれていたのか。二人を知らないこともあつて「はしか犬」のニュアンスを理解できずにいる。

改めていうまでもないことだが、石蔵と伊勢戸は「人吉新聞」の創始者である。「はしか犬」の二人がつくった新聞が、なぜ、どのようにして、人吉を代表する新聞になったのか。それも気になる。同紙は同人誌ではなく商品である。「週刊ひとよし」もそうだ。「内容がいいなら売れる」という意見もあるかもしれないが、そうではない。「内容がいい」は重要である。しかし、それだけでは足りない。新聞・雑誌は商品である以上需要と供給の法則にしたがい、購買者の判断・嗜好に売り上げを左右される。「内容がいい」といった自己評価だけを基礎にしている出版は商売にならない。

★伊勢戸 明 氏 略歴

1933年（昭和8）朝鮮京城（ソウル）で生まれる
1951年（昭和26）大分県立大分第一高校（現上野丘高校）卒業
1955年（昭和30）東京教育大（現筑波大）中退後、大分新聞社入社
1958年（昭和33）石蔵正次氏とともに「人吉新聞」を創刊（昭和35年より日刊）
1968年（昭和43）人吉新聞常務取締役報道局長
1988年（昭和63）同社専務取締役
この間、人吉新聞の連載コラム「瀬音」を38年間執筆
1996年（平成8）同社を退職、人吉中央出版社創設
1997年（平成9）文化情報誌「週刊ひとよし」（毎週日曜日）を創刊。コラム「くま春秋」600本余りを執筆
2010年（平成22）4月13日、77歳にて永眠

よそ者

石蔵正次。伊勢戸の人生に決定的影響を与えた人物である。人吉の有名な人でもある。それにもかかわらず彼の履歴をほとんど知らない。振り返ってみれば伊勢戸についても、そうだ。顔をみたこともなければ、彼の膨大な文章を読んでいるわけでもない。『くま春秋』におさめられているコラムを読んでいるにとどまる。事典として利用するだけなら、それでいいようにも思えるが、しかし、それでは、やはり不十分だ。『くま春秋』は伊勢戸の思想の一面を表現しているが、その一面を根本からは把握するためには同書に収録されていない原稿・記事にも目を通さな

ければならない。今回、同書を通読し、それを強く感じる。

伊勢戸は朝鮮半島で生まれ、敗戦後に本家のある大分に戻り東京教育大学（現在の筑波大学）を中退し大分の新聞社につとめた。昭和33年7月に人吉に転居し、「人吉新聞」を石蔵とともに創り育てた。「人吉の人」からみれば、伊勢戸はまぎれもなく「よそ者」だが、そのよそ者が「人吉新聞」と「週刊ひとよし」をつくった事実を確認してしかるべきである。いまだき「よそ者」を問題にするのかと思う人もいるかもしれないが、そうではない。少なくとも簡単に切り捨てるべき問題ではない。土地には風土がある。その風土が重たいのだ。地縁・血縁の束縛・拘束力も無視できない。合理的言葉で説明できないものが土地

「週刊ひとよし」に連載された後、単行本になった作品



には染み込んでいる。その土地で生まれ育った者とそうでない者とは「人種」がちがう。知識や時間はいずれも変えられない。同じ人吉市内で生まれ育っても、場所がちがえば「よそ者」として意識されるだろう。

「よそ者」は、馬鹿者、若者と並んで地域づくりの担い手と指摘されるときがあるが、地元的事情を知らない者として否定的にあつかわれるときもある。伊勢戸は、果たしてどちらであつたのだろうか。あるいは途中から「人吉の人」になったであろうか。知的側面・人吉への愛着の点で彼は完全に「地元の人」になった。けれども細部にこだわるときにはどうか。知識や人柄、生活した時間数によつて「よそ者」という属性は失われたであろうか。本書を読むとき、彼が「よそ者」であるとは思えない。しかしながら生粋の「人吉の人」なら感じる部分もあるかもしれない。

本誌執筆陣の上田精一、岐部明廣なども「よそ者」である。別用のさい上田に事情をうかがつた。「八代の者(ヤツチロンモン)」と呼ばれたことがあるとのことであつた。

警鐘を鳴らす

政治家・井上龍生、ジャーナリスト・石蔵正次の兩人に注目することなく、これまで『くま春秋』を読んできた。伊勢戸の背後には無数の人々がいる。この二人はそのなかの一部にすぎないと考え、特に二人に注目することはなかった。しかし、それではダメである。二人は特別の位置を占めていることを忘れてはならない。

伊勢戸は63歳で人吉新聞社を定年退職した。そして64歳の時に「週刊ひとよし」を創刊した。井上らの支援・後援があつたにせよ、凡人にはとうていできないであろう。ジャーナリストとしての血がそうさせたのかもしれないが、それほど問題は単純でなかったろう。伊勢戸は、井上の提案どおり「警鐘」を鳴らしつづけた。彼は死にいたるまで警鐘を乱打した。なにについての警鐘か。それについては別の機会に述べよう。しかし犬のよそ者、警鐘を鳴らしつづけた男、それが伊勢戸明であつた。本書を通読し、自己の不知を深く知る。(以上、敬称略)。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

現職・中村博生氏再選される

八代市長選

市庁舎建設問題と 市民病院病棟問題

注目の八代市長選挙は現職の中村博生氏(58)が新人の幸村香代子氏(55)に大差をつけて再選された。

現職の再選は19年ぶり。1期4年の市長交代では市政が安定しないと有権者が判

断したとみられる。投票率の低下傾向は今回もつづいた(2005年79・5%、

2009年77・27%、前回66・99%、今回63・27%)。

中村市長は「始動から加速」をスローガンにした。行政目標を提示し、スピー

ド感をもつてそれを実施すべきは当然である。問題はその財政的裏づけである。財政に余裕があれば政策実施の自由度は高まる。しかし財政事情が厳しいときには、ニーズを満たす政策を実施したくてもできない。同市

は環境センターの建設などにとまない2020年に起債発行残高は過去最高になる。同市は「大型事業が偶然に重なったことによる、50年に1度発生するような例外的状況で、その後、財政は安定する」と説明しているが、それを疑問視する向きもある。

高齢化も深刻である。高齢化は急性期対応型病院とともに機能回復対応型病院の両者の必要性を強める。市民病院入院病棟の再開問題が八代市議会でも論点になつていたのはそのためである。中村市長は10月にこの問題について市の見解を述べると述べている。

市庁舎建設問題で同市は集中型派と分散型派の対立がつついているが、その最大の理由は同市の財政事情にある。既存施設を利用する分散型は安価になるのに対して、集中型は新規大型事業になるため高額になる。

中村市長は集中型を支持している。市庁舎問題と市民病院入院病棟問題の行方に注目したい。



中村博生氏

問1 熊本県知事になったことのある人物を5人挙げよ。(例：蒲島郁夫)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問2 小山勝清の作品を5点挙げよ。(例：『それからの武蔵』)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問3、次の場所が存在する市町村名を書け。(例：佐敷城跡は芦北町にある)

- ① 槍倒しの瀬は () にある
- ② 大王神社は () にある
- ③ 日奈久温泉は () にある
- ④ くまがわ鉄道湯前線の川村駅は () にある
- ⑤ 生善院(猫寺)は () にある
- ⑥ 「湯～とぴあ」は () にある
- ⑦ 球磨地域振興局は () にある
- ⑧ 江戸相撲力士熊ヶ嶽猪之介の墓は () にある
- ⑨ 別名「幽霊トンネル」は () にある
- ⑩ 千代女の墓(慰霊碑)は () にある
- ⑪ リュウキンカ自生地最南端地は () である

問4、下の写真の名称を答えよ

①眼鏡橋 (津奈木町)



答 () 橋

②公園 (八代市坂本町)



答 () パーク

③駅 (人吉市)



答 () 駅

※答え合わせは次号でおこないます。前回の答え合わせは87頁で。

★全問正解者には抽選で弊社の書籍をプレゼントします。ハガキ又は封書で弊社まで解答をお送りください。

字図で見る球磨の地名 ① 上村重次

葉瀬場と長谷場（ハセバとハセバ）

— 湯前町 —

明治前期町村小字調査書の湯前村の項に字葉瀬場（ハセバ）があるが、



現行字図にはなくて、長谷場と長谷場宝陀寺が出ています。しかし訓仮名を欠くので正確な読みはわからない。明治期まではハセバと呼ばれる字地があつて葉瀬場と表記されていたのが、長谷場に変つたのであろう。この項では明治期の字名と現行字名の双方を登場させた。字図の葉瀬場は現行の長谷場宝陀寺のことである。

地名や人名には特殊訓があつて漢和辞典の音訓に照らし合わせても読めない場合が珍しくない。東海林をシヨウジ、長谷をハセとよませるのはその例である。

東海林をシヨウジと読ませることにについては『新編姓氏家系辞書』（太田

【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版です。市町村合併前の地名となつていますが、ご了承ください。

亮著）は次のように説明する（要旨）「古代、大陸渡来の林（りん）氏が東海地方に住み着き、承仕師（しょうじし）雑役夫）をしていたことから「東海の林さんは承仕」という意味で、東海林がシヨウジと呼ばれるようになったと思う」

長谷をハセと読むことについては『大言海』は次のように記す（要旨）「はつせ初瀬・泊瀬。長谷をハツセと云うのは、谷が狭まっていて長いことから、ハツセに長谷を宛てたもので、川瀬の初まるころ、略してハセ」

『萬葉集』には巻七・1108はつせがわ ながるるみをの せをはやみ

泊瀬川 流水尾之 湍乎早いでこすなみの おとのさやけく

井堤越浪之 音之清久

のほか泊瀬川の歌が数首あるが「長谷川」と表記する例はなく、ハツセがハセに略称されるようになったのは萬葉以降のことであろうか。それにしても長谷をハセと特殊訓みするのが全国に普及、定着したのは古代のことであるが、単に「川瀬の初まるころ」という地形認識では説明不十分な気がする。

ハツセ地名の発祥地ともいわれる奈良県桜井市初瀬（ハセ）には真言宗豊山派総本山の長谷寺（はせでら）があり、その創建は天武朝の時代とされ、長谷寺の寺号を名乗る寺院は全国に百余ヶ寺あるという（『国民百科事典』）。長谷系寺院の展開と長谷地名

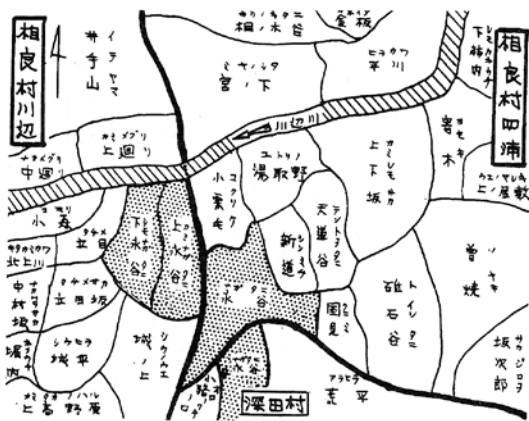
の関係は見逃せない。スハという地名の由縁で諏訪神が勧請された例が多いと推定したように、ハセ地名が取り持つ縁で長谷系寺院が全国に普及・定着したことも考えられよう。ハセは端（はし）と同根の語であり、ハシ地名とハセ地名は同義なのであろう。

湯前町の長谷場一帯は多良木町久米との境域であり、宝陀寺（ホウダジ）という字名と寺跡観音堂が現存する。ここは古い時代の長谷系寺院とすれば長谷場の「場」は寺地を意味する語と理解される。

永谷（ナガタニ）

— 相良村・深田村 —

長谷をハセと読むのは泊瀬からの転化である。泊瀬はトドマルところの意で、地名としては区域の果て、即ち



境地ということになる。では永谷と長谷は違うのだろうか。

相良村川辺、四浦および深田村の村境一帯に永谷地名が集中している。川辺川左岸、通称上下坂（シヨウゲザカ）と呼ばれる付近のことで、深田村鷺巣の方へと谷が続く。この地形

外来語から学ぶ英単語 (18) …… 藤原 宏

タクト・タンジェント・タンジブル・コンタクト Takt tangent tangible contact

音楽の指揮棒のタクト (Takt) はドイツ語で、英語の tact (タクト) は「如才なさ・機転・鋭い感覚・(指揮棒の) 一振り」などの意で使われます。ドイツ語の Takt (拍子・節) と英語の tact の語源はラテン語「tactus (ククトゥス)、触覚」で、動詞形が「tangere (タンゲレ)、触れる」となります。

「tangent (タンジェント)、幾何の接線・三角法の正接」は動詞 tangere の現在分詞形が借用されたもので、これに「余」を表す接頭辞「co-」がついたのが「cotangent (コタンジェント)、余接」となります。

tangere (触れる) に「…できる」意の接尾辞「-ible (able)」がついたのが、「tangible (タンジブル)、触れることができる・現実の・明白な・有形の」で、「tangible assets (アセツツ)」は有形資産のことです。

コンタクトレンズ (contact lens) の contact (二つの物質の接触・接点・連絡・交信・交渉・手づる) は、「con (共に) + tangere (触れる)」が原義です。同系に「intact (インタクト)、手がつけられていない・そのままの・処女の)」があります。(384)



— 民進党代表に前原氏 —

野党第一党としての責任を果たし、国民の声にこたえてほしいという声多し。

ふくだ…
げっかん・ぎびょう

によって永谷の地名が付いたとも考えられよう。しかし、山は高く谷は長いのがあたりまえで、ことさらに永谷とネーミングされたからには、それなりの理由があろう。

一般に長は具体的な長さ、永は抽象的な長さの表現として用いられるが、辞典を見ると永久、長久の語があるように長と永には厳密な区別はないようである。固有名詞である地名は長谷・長田・長畑と永谷・永田・永畑は明確に区別されるものの、それは意味の違いではなく、記号的差異に過ぎない。

『日本地名索引』でナガタニ地名を見ると五十件あつて、うち四十二件が長谷、残り八件が永谷である。永谷は長谷の言い換え(用字換え)であることがわかる。球磨地区でみれば、長谷六件、永谷十件となっていて、永谷が多数派である。これは永谷が上・中・下と分かれているためで、基準地名としては長谷、永谷は各五件の同数となるが、字図で検討すると、永谷・長谷地名はムラ境にあり、人吉市赤池水無町字永谷と東間下町字長谷は隣り合っていて、永谷と長谷が同義地名であることを裏付けている。

長谷と永谷の関係はおぼろげながらわかったのであるが、「谷」は溪谷であるのかどうか新たな疑問となってくる。谷地名は各地にみられるものの、山間地に限らず平地部でも谷地名は珍しくない。地名の谷は関東では「ヤ」、関西では「タニ」と読む例が多いが、いずれにしろ谷地名は全国区型である。これに対して谷の小規模な地形とされる迫地名は西日本の地

域的に偏在するローカル型。熊本県内の字名の迫地名は二百十二件あるが、佐賀県には二十二件しかない。このような分布状況からみて谷地名の「谷」はキワマリの意に主眼目があるように思われる。進退谷(きわまる、という用例からすれば、区域の極限、即ちムラの尽きる所の表現が谷地名の原点ではなからうか。

『日本書紀』(成務紀)に「山河を界にして国縣を分く」という記事があるが、山や川(谷も)を境界にしたことから、境界表現の谷地名が普及、定着したことも考えられよう。谷地名の検討、究明に当たっては、谷に窮・極の意があることを念頭に置く必要があることを強調したい。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

22日から作品展

人吉・球磨美術連盟

絵画制作に勤しむ人たちが組織する「人吉・球磨美術（絵画）連盟」（宮村宏代表）の作品展が9月22日から24日まで

の3日間、人吉カルチャーパレスで開催される。本誌など後援。

同連盟は2015年の11月、絵筆を握る愛好者が一堂に会し発足、今年は第3回目の作品展となる。

独身女性を募集中

大人の田んぼの学校

水土里ネット百太郎溝（百太郎溝土地改良区）では、農業や自然環境への感心を高め、将来を担う若手農家を応援す



るためのイベント「大人の田んぼの学校」の参加者を募集している。今回、募集するのは球磨郡以外に在住する20代から40代までの独身女性で、自然や農業に興味を持つ人が対象。10月22日に、球磨郡多良木町にある百太郎溝の施設見学や梨狩り体験などを通して若手農家男性との交流を図る。問い合わせは水土里ネット百太郎溝（☎0966・42・2075）へ。

すべての人を自分の親だと思って...



○新 旧 換 間 華 人 来 一 仏
○国 籍 入 所 生 産 介 護 所
○産 所 介 護 事 業 所
○監 理 介 護 実 施 事 業 所

社会福祉法人 天宮会



〒868-0068 人吉市下藤田町瓜生田1057-8
総機関門 ☎0968-22-8821 FAX 0968-22-8822
在留機関門 ☎0968-22-2141 FAX 0968-22-2189
http://pink5.webkai.com/~ryusogan/
e-mail:tenunkai@ab.webkai.com

②熊本総合病院は（ 八代市 ）にある。

【解説】

★昭和23年(1948年)4月、健康保険八代総合病院（略称「八代総合病院」として設立。平成25年(2013年)1月、現在地に新病棟を建設し、健康保険熊本総合病院（略称「熊本総合病院」）に名称変更。平成26年(2014年)4月、独立行政法人地域医療機能推進機構熊本総合病院(JCHO熊本総合病院(略称「熊本総合病院」）に名称を変更。



③小山勝清の生家は（ 相良村 ）にある。

④大村横穴墓群は（ 人吉市 ）にある。

★木崎康弘『肥後と球磨 その原史社会に魅せられし人々』469～475頁参照

⑤浜眼鏡橋は（ 津奈木町 ）にある。

★上村和代「岩永三平の世界」本誌12号22頁参照

⑥市房ダムは（ 水上村 ）にある。

⑦丸目蔵人佐の墓は（ 錦町 ）にある。

⑧エンブリー夫妻が研究したムラは（あさぎり町（旧・須恵村））にある。

⑨中山観音は（ 多良木町 ）にある。

★岐部明廣「多良木町奥野・中山観音讃歌」本誌7号50頁以下、同『日本遺産 相良三十三観音巡礼』（人吉中央出版社 2016年5月31日）13頁以下参照。

⑩まんが美術館は（ 湯前町 ）にある。

⑪びゃーどんの墓は（ 五木村 ）にある。

問5、下の写真の名称を答えよ

- | | |
|-------------|--------------------------|
| ①城跡（八代市坂本町） | 答（ 瀬高城跡 ） |
| ②駅舎（球磨村） | 答（ 那良口駅 ） |
| | ★松本晋一「那良口駅」本誌11号10頁以下参照。 |
| ③人吉市にある家屋 | 答（ 旧青井家住宅 ）★「本誌17号3頁参照。 |
| ④八代市にある工場 | 答（ 日本製紙八代工場 ） |
| ⑤球磨郡にある施設 | 答（ 百太郎溝 ） |

★本誌13号2頁以下、尾方保之『概説 相良藩』（人吉中央出版社 2008年11月15日）21頁参照

前号【くまがわ学習塾⑧の答え】

問1 球磨川の支流を5つ挙げよ。(例 川辺川)

- ① (柳橋川)
- ② (井口川)
- ③ (免田川)
- ④ (吉尾川)
- ⑤ (万江川) など

問2 「私」を基準にしたときの家族・親戚の名称を漢字で書け。

(例 母の妹＝叔母)

- ① 父の兄 (伯父)

★大叔父は不可。大叔父は「祖母の弟」などの場合につかう。

- ② 祖母の兄 (大伯父)

★大叔父は不可。大叔父は「祖母の弟」などの場合につかう。

- ③ 母の妹の子 (従兄) (従弟) (従姉) (従妹)

★いずれも「イトコ」と読む。従兄弟・従姉妹と表現する例もあるが、その場合には、そのイトコとの年齢関係を確認できない。女性のイトコの場合には「従兄弟」とはせず、男子のイトコの場合には「従姉妹」としない。

- ④ 祖母の子 (伯父) (叔父) (伯母) (叔母)

★「父」・「母」も可。父・母の兄は「伯父」、その弟は「叔父」、その姉は「伯母」、妹は「叔母」。

- ⑤ 娘の兄 (息子)

問3、次の式を解け。

- $$7 + 3 = 41021$$
- $$8 + 3 = 51124$$
- $$5 + 4 = 1920$$
- $$9 + 6 = (31554)$$
- $$7 + 4 = 31128$$
- $$5 + 2 = 3710$$
- $$17 + 8 = 925136$$
- $$13 + 6 = (71978)$$

【解説】

★「+」を記号と考えるとわかりやすい。「 $7 + 3 = 41021$ 」の場合、「 $7 - 3 = 4$ 」、「 $7 + 3 = 10$ 」、「 $7 \times 3 = 21$ 」の形になっている。それを並べると、「41021」になる。その他の問題も「-」・「+」・「 $\times$ 」の形になっているので簡単に答は出る。

問4、次の場所が存在する市町村名を書け。

(例、球泉洞は () にある。→ (球磨村)

- ①赤松館は (芦北町) にある。

【解説】

★赤松館は「せきしょうかん」とよむ。近隣の赤松峠に由来する藤崎家の屋敷の別称。

★藤崎家の由来は十分に確認しきれていない。文献的には、幕末に田浦手永浜町村の「頭百姓」として登場するのが初見のようである。明治に入ると大地主として認知されていること、明治の彌一郎の時期から事跡が詳細になることなどから推測すると、幕末までに商人資本として財力を強めたのち、維新後に、地主資本としての性格を前面に出すようになったのではないかと推測される。徳富蘇峰（徳富家は江戸時代初期からの水俣の庄屋）が「国民新聞社」を創設するさい（明治23年）に資金を提供するとともに、対価的側面の意味ある動産（勝海舟の書）を蘇峰から得ている事情もそうした藤崎家の性格と関係しているのではないかと推測される。藤崎家は「白雲、旅人の如し」とする（しかし、「旅人」とよむには無理があるようにみえる）。



★主屋の棟札には明治26年（1893年）9月4日の日付がある。翌年一部完成。同年、日清戦争が開始し、完成に至らなかった。昨年の地震で一部に亀裂が発生し、残念ながら現時点では、その部分を完全には修復できていない。

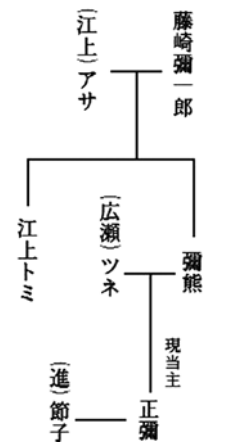


勝海舟の書

★藤崎家は、党派的には、改進黨（実学党の流れ）に属していた。熊本県では、長く、改進黨（政友会）と国権党が対立した。たとえば勝清の小山家は国権党であった。郡築争議も両者の対立の影響を受けている。幕末の学校党と実学党の対立まで両者の対立はさかのぼる。渡辺京二『熊本県人』（言視舎 2012年2月28日）157頁以下参照。同書は、同名の新人物往来社版（1972年）に筆者による「あとがき」を付し、再編集したものである。

★料理研究家の故江上トミ（1899 - 1980年）は同家の出身。6歳のとき、母（アサ）の実家・江上家の養子になり、江上姓を名乗る。

★平成12年（2000年）10月18日に、同館は「登録有形文化財」に登録。



(注) カッコ内は旧姓

編集後記

今年の春に弊社事務所の移転に伴う引越作業を終えたばかりだが、夏は我が家の引越しとあいなつた。猛暑の中での引越しは、さすがにこたえた。25年住んだ家の中からは不要品が山のように出てきて、引越し作業より断捨離の方に時間を取られた。それにしてもよくこんなに物を溜め込んだものだと思つて、古手紙なども発見した。これは捨てられない。★古いといえば、今月号のつる詳子さんの「昭和40年7月3日の球磨川大水害の記録」は、人吉でも未曾有の被害があつた大水害の、坂本での記録である。古い写真から当時の被害を知ることができる貴重な資料となっており、今後の水害対策にも役に立つ情報があると思われる。★もうすぐお彼岸、岐部明廣著『日本遺産相良三十三観音巡礼』を手に、暑かつた夏に別れを告げる旅などいかがであらう。今月も弊社出版物の宣伝でしめくくらせていただきました。あしからず。(ま)

〒868-0015
熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hiyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966-23-3759

インフォメーション

開催中

- ▽夏季特別展覧会「探してみよう! やつしろの宝もの」指定文化財大集合(8月27日、八代市立博物館未来の森ミュージアム) 7月16日(日)
- ▽織月杯ソフトボール大会(人吉市第一市民運動広場) 7月16日(日)
- ▽熊本震災チャリティコンサート「クラシック・ナイト」(人吉市上薩摩瀬町イベントホールPRIMAVERA) 7月17日(月) 海の日
- ▽「勝地温泉「かわせみ」感謝祭(球磨村同施設)」 7月22日(土)
- ▽人吉市城本町「大村古墳まつり」(城本公園) 7月23日(日)
- ▽人吉市球磨児童による「童話発表会」(人吉市カルチャーパレス) 7月28日(金)
- ▽にしきほもん街道ヒアガーデン(錦町役場前広場) 7月29日(土)
- ▽きし馬カッパU-13サッカー大会(30日、人吉市梢山グラウンド) 7月29日(土)
- ▽第28回リバーフェスティバル「サガラッパ祭」(相良村柳瀬の河川敷) 8月5日(土)
- ▽第50回八代くま川祭り(八代市中心商店街、袋町く旭中央通) 8月6日(日)
- ▽映画協40周年記念上映会「この世界の片隅に」(あさぎり町須恵文化ホール) 8月11日(金) 山の日
- ▽「おどん達も応援団」立ち上げ熊本! 東日本! 復興支援チャリティショー(あさぎり町須恵文化ホール)



たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア

(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

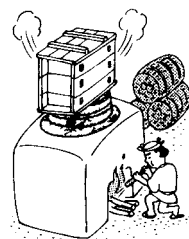
ケアプラン作成所いずみ
(居宅介護支援事業所)

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

匠の枝



◆納豆みそ
477円(税抜)

◆納豆みそ
(お徳用)
300円(税抜)

御膳醤油

(だし入り万能しょうゆ)



・玉子かけご飯
・豆腐
・お刺身に
300ml 650円(税抜)



◆みそ煎餅
477円(税抜)

人吉散策コース 九州初蔵蔵めくり
みそ・しょうゆ蔵



釜田醸造所
会長 釜田 元 嘉顕
社長 釜田 顕

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp